

中山間地域における「地域特性を活かした 多様な複合経営モデル」について

令和 3 年 3 月

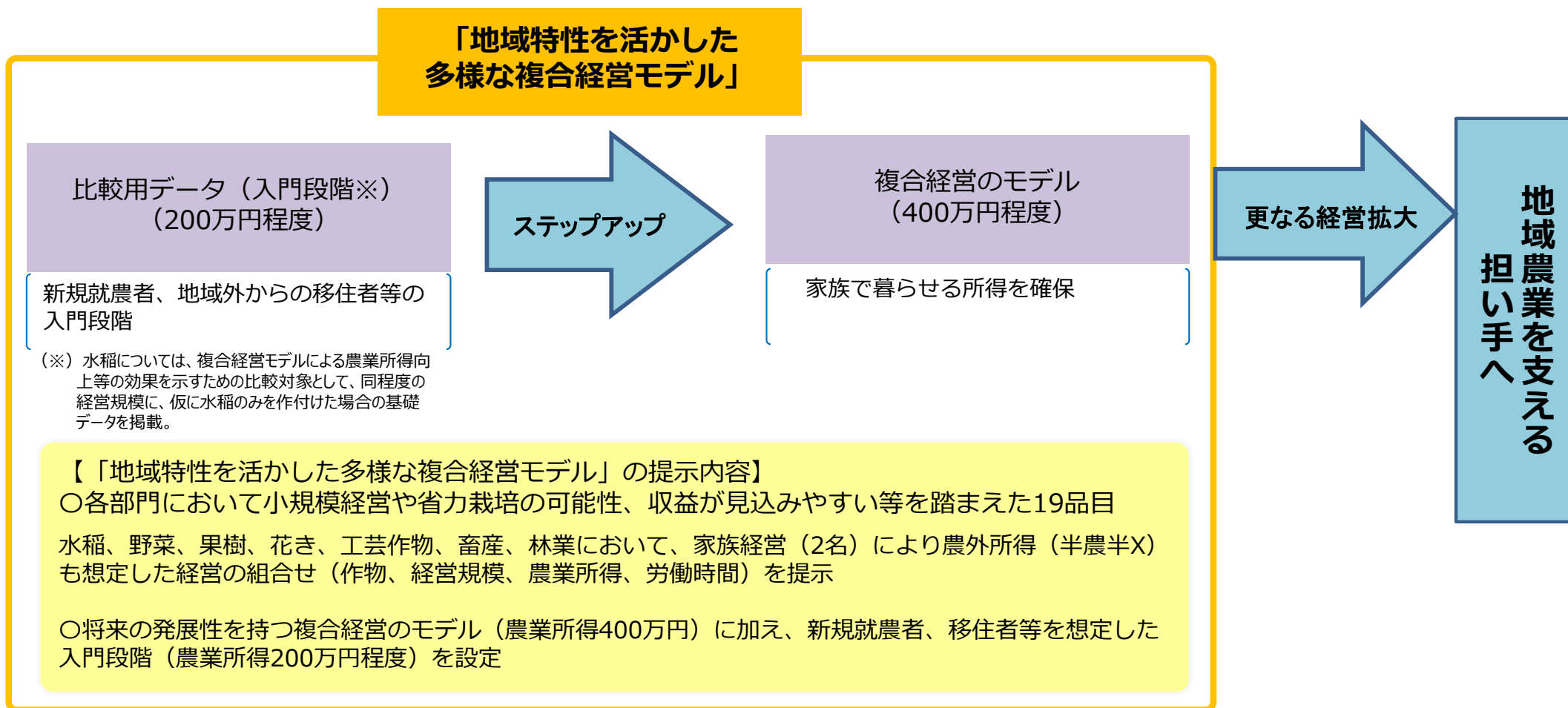
農林水産省

「地域特性を活かした多様な複合経営モデル」について

- (1) 新しい食料・農業・農村基本計画では、地域農業を支える担い手が新たな技術等を活用した省力的かつ生産性の高い農業経営モデル(37類型)を提示し、併せて新たなライフスタイルや規模が小さくても農地の維持、地域の活性化に寄与する取り組みも提示している。
- (2) 他方、少ない人口で維持されている中山間地域を今後も安定的に維持していくためには、地形的制約等の一方で清らかな水、冷涼な気候等を活かした農作物の生産が可能である点を活かし、市場性のある作物や現場ニーズに対応した技術の導入を進め、耕種農業のみならず畜産、林業を含めた多様な複合経営を推進することで、新たな人材を確保しつつ、小規模農家をはじめとした多様な経営体がそれぞれにふさわしい農業経営を実現する必要がある。
- (3) このため、「地域特性を活かした多様な複合経営モデル」では、近年、市場性があると考えられる新たな作物や最新の技術も加味しながら、地域内外の新たな人材(新規就農者等)が取り組み得る「入門段階」の小規模経営(農業所得200万円程度)と、家族で暮らせる「複合経営のモデル」(農業所得400万円程度)を一体的に示し、また本モデルを活用した多様なライフスタイルを実現するための考え方を示した。
- (4) 地域への定着や今後の方向性を考えるにあたり、このモデルを参考とすることで、中山間地域における小規模農家をはじめとした多様な経営体の所得確保や新たな人材の裾野の拡大が進むことを期待するものである。

「地域特性を活かした多様な複合経営モデル」の基本的考え方

- 中山間地域等においては、人口減少・高齢化が深刻化しており、地域農業の担い手の育成が急務
- このため、中山間地域の特性を活かし、農業部門については薬草など工芸作物を加えるとともに、農業部門だけでなく畜産、林業や農外所得も含めた小規模経営や省力化が可能な複合経営モデルを提示



「地域特性を活かした多様な複合経営モデル」の試算について

(1) 経営指標の考え方

- ・ 試算は、農業経営統計のほか経営事例等を活用して行った。
- ・ 農業所得は、農業経営統計における農業所得の考え方に準じて試算（農業粗収益（補助金を含む）から物的経費、雇用経費、支払利子・地代を控除）した。
- ・ 複合経営タイプの所得水準については、他産業での所得水準や都道府県の実績などを勘案し、1経営体当たり年間所得400万円とした。
- ・ 経営体は家族2名（うち主たる従事者1名）を基本とし、繁忙期は臨時雇用を見込んだ。

(2) 試算の前提

- ・ 農産物価格は、統計のほか経営事例などを踏まえて設定した。
- ・ 単収及び生産コストは、統計や経営事例を基に、標準的な技術水準を踏まえて設定した。
- ・ 補助金は、原則、R2年度の実績を用いた。
- ・ 労働時間は1800時間／人を基本（上限2000時間／人）とし、1800時間から農業労働時間を除いたものを余剰労働力（時間）とした。
- ・ 臨時雇用賃金は、農業経営統計の雇用労賃単価並み（1,000円／時）で試算した。
- ・ 耕種部門は基盤整備が行われていることを前提とし、土地改良・水利費をコストに計上して試算した。

※ 数値は四捨五入して示しているため、示した数値間で計算しても一致しない場合がある。

「地域特性を活かした多様な複合経営モデル」(一覧) ①

モデル番号	営農類型	対象地域	モデルのポイント	経営形態	経営規模	試算結果			
						粗収益	経営費	農業所得	家族労働時間 (労働生産性 円/hr)
①	野菜 ＋水稲	中山間 地域（東 北以南）	果菜類ではポピュラーである野菜（ミニトマト）を主部門とし、水稲（副部門）との複合経営による農地の有効活用を行い、将来的には水田における作付転換による野菜の面積拡大を図り、収益性の向上と更なる経営安定を目指す複合経営。	家族経営（2名 （うち主たる 従事者1名） 臨時雇用2名）	経営耕地 1.8ha ミニトマト 0.2ha （雨よけ） 水稲 1.6ha	1,004万円	617万円	387万円	1,970hr (1,964円/hr)
②	野菜 ＋野菜	中山間 地域（全国）	葉菜類であるほうれん草を施設栽培することで安定生産を図りつつ、需要が高いブロッコリーの露地栽培により更なる収益性の向上を目指す複合経営。	家族経営（2名 （うち主たる 従事者1名） 臨時雇用1名）	経営耕地 1.6ha ほうれん草 0.4ha ブロッコリー 1.2ha	1,302万円	944万円	358万円	2,614hr (1,370円/hr)
③	野菜 ＋果樹	中山間 地域（温暖地域）	葉菜類であるほうれん草を施設栽培することで安定生産を図りつつ、ほうれん草の農閑期にレモンの出荷等を行うことで周年で収益確保を目指す複合経営。	家族経営（2名 （うち主たる 従事者1名） 臨時雇用2名）	経営耕地 0.7ha ほうれん草 0.4ha レモン 0.3ha	1,155万円	804万円	351万円	2,333hr (1,505円/hr)
④	果樹 ＋水稲	中山間 地域（南 東北以西）	中山間地域における果樹の基幹代表作物であるなしを主部門、水稲を副部門とし、将来的には水田における作付転換による果樹の面積拡大を図り、収益性の向上や多品目栽培を目指す複合経営。	家族経営（2名 （うち主たる 従事者1名） 臨時雇用3名）	経営耕地 3.0ha なし 0.8ha 水稲 2.2ha	1,391万円	979万円	412万円	2,587hr (1,593円/hr)
⑤	果樹 ＋野菜	中山間 地域（南 東北以西）	果樹の中でも収益性が高く、輸出への展開も期待できるぶどうを主部門としつつ、全国的に広く栽培可能かつ高収益な施設ミニトマトを副部門とする複合経営により、収益の向上並びに経営安定を図る複合経営。	家族経営（2名 （うち主たる 従事者1名） 臨時雇用4名）	経営耕地 0.67ha ぶどう 0.6ha 施設ミニトマト 0.07ha	1,096万円	698万円	398万円	1,553hr (2,563円/hr)

「地域特性を活かした多様な複合経営モデル」(一覧) ②

モデル番号	営農類型	対象地域	モデルのポイント	経営形態	経営規模	試算結果			
						粗収益	経営費	農業所得	家族労働時間 (労働生産性 円/hr)
⑥	果樹 ＋果樹	中山間 地域（南 東北以 西）	中山間地域における基幹代表作物であり、干し柿等の加工品への展開も期待できるかきを主部門としつつ、うめ（副部門）との複合経営による経営安定を図り、将来的にはかき、うめ加工品の製造・販売といった6次産業化への発展も視野に入れた複合経営。	家族経営（2名 （うち主たる 従事者1名） 臨時雇用3名）	経営耕地 2.0ha かき 1.2ha うめ 0.8ha	1,257万円	851万円	406万円	2,358hr (1,722円/hr)
⑦	花き ＋水稻	中山間 地域（全国）	彼岸需要等の市場性が高く、価格が安定し、冷涼な気候を好むりんどうを主部門とし、水稻を副部門とする複合経営。	家族経営（2名 （うち主たる 従事者1名） 臨時雇用5名）	経営耕地 4.7ha 水稻 3.9ha りんどう 0.8ha	1,291万円	904万円	387万円	2,250hr (1,720円/hr)
⑧	花き ＋水稻	中山間 地域（全国）	周年採花が可能なダリアを主部門とし、水稻を副部門とする複合経営。	家族経営（2名 （うち主たる 従事者1名） 臨時雇用1名）	経営耕地 4.1ha 水稻 3.9ha ダリア 0.2ha	1,647万円	1,241万円	406万円	2,858hr (1,421円/hr)
⑨	茶 ＋果樹	中山間 地域（関東以西）	茶（自園自製自販）を主部門に、レモンを副部門にした複合経営による農業所得の拡大。	家族経営（2名 （うち主たる 従事者1名） 臨時雇用1名）	経営耕地 1.5ha 茶 1.2ha レモン 0.3ha	1,192万円	793万円	399万円	2,395hr (1,666円/hr)
⑩	薬草作物 ＋水稻	中山間 地域（全国）	薬用作物（トウキ）を新たに導入することにより、雇用労働力を最小限に留め、農業所得を拡大。	家族経営（2名 （うち主たる 従事者1名） 臨時雇用1名）	経営耕地 4.9ha トウキ 1.0ha 水稻 3.9ha	833万円	401万円	432万円	2,132hr (2,026円/hr)

「地域特性を活かした多様な複合経営モデル」(一覧) ③

モデル番号	営農類型	対象地域	モデルのポイント	経営形態	経営規模	試算結果			
						粗収益	経営費	農業所得	家族労働時間 (労働生産性 円/hr)
⑪	薬用作物 ＋野菜	中山間 地域 (全国)	薬用作物（トウキ）を主部門としつつ、 露地なすを導入することにより、雇用労働力の利用を最小限に留めつつ、農業所得を拡大。	家族経営（2名 （うち主たる 従事者1名） 臨時雇用2名）	経営耕地 1.2ha トウキ 1.0ha 露地なす 0.2ha	822万円	414万円	407万円	2,805hr (1,451円/hr)
⑫	薬草作物 ＋林産物	中山間 地域 (全国)	薬用作物（シャクヤク）を主部門としつつ、 原木しいたけを導入することにより、雇用労働力の利用を最小限に留めつつ、 農業所得を拡大。	家族経営（2名 （うち主たる 従事者1名） 臨時雇用1名）	経営耕地 0.65ha シャクヤク 0.65ha 原木しいたけ0.07ha	1,045万円	651万円	394万円	3,437hr (1,146円/hr)
⑬	肉用牛 ＋水稻	中山間 地域 (全国)	肉用牛の繁殖経営を主部門、水稻を副部門とした複合経営により農業所得を拡大。	家族経営（2名 （うち主たる 従事者1名）	経営耕地 2.2ha 繁殖雌牛 10～20頭 水稻 2.2ha	1,358万円	880万円	478万円	1,355hr (3,528円/hr)
⑭	肉用牛 ＋野菜	中山間 地域 (全国)	肉用牛の繁殖経営を主部門に、野菜を副部門となっている複合経営の農業所得の拡大。	家族経営（2名 （うち主たる 従事者1名）	経営耕地 0.8ha 繁殖雌牛 10～20頭 ブロッコリー 0.8ha	1,342万円	905万円	437万円	1,797hr (2,432円/hr)
⑮	肉用牛 ＋果樹	中山間 地域 (全国)	肉用牛の繁殖経営を主部門に、果樹を副部門となっている複合経営の農業所得の拡大。	家族経営（2名 （うち主たる 従事者1名）	経営耕地 0.9ha 繁殖雌牛 10～20頭 かき 0.9ha	1,422万円	970万円	452万円	1,939hr (2,331円/hr)

「地域特性を活かした多様な複合経営モデル」(一覧) ④

モデル番号	営農類型	対象地域	モデルのポイント	経営形態	経営規模	試算結果			
						粗収益	経営費	農業所得	家族労働時間 (労働生産性 円/hr)
⑬	肉用牛 + 林業	中山間 地域 (全国)	肉用牛の繁殖経営を主部門に、林業を副部門となっている複合経営の農業所得の拡大。	家族経営(2名 (うち主たる 従事者1名)	経営耕地 0.03ha 繁殖雌牛 10~20頭 原木しいたけ0.03ha	1,342万円	905万円	437万円	1,800hr (2,428円/hr)
⑭	林業 + 野菜	中山間 地域(東北以南)	所有山林または作業受託した山林の間伐作業を主部門としつつ、全国的に広く栽培可能かつ高収益な施設ミニトマトを副部門とする複合経営モデルにより、収益の向上並びに経営安定を図る。	家族経営(2名 (うち主たる 従事者1名) 臨時雇用1~3名)	経営耕地 8.2ha スギ(間伐) 8.0ha ミニトマト 0.2ha	1,020万円	604万円	416万円	3,296hr (1,262円/hr)
⑮	林業 + 果樹	中山間 地域 (全国)	中山間地域で一般的に生産されている原木しいたけと収穫期が異なり、栽培管理が比較的少ないブルーベリーとの複合経営により、生産性の向上や所得拡大を目指す。	家族経営(2名 (うち主たる 従事者1名) 臨時雇用1~4名)	経営耕地 0.5ha 原木しいたけ 0.1ha ブルーベリー 0.4ha	1,520万円	1,120万円	400万円	3,539hr (1,130円/hr)

「地域特性を活かした多様な複合経営モデル」 の例示

水稻、野菜、果樹、花き、工芸作物、畜産、林業の
組合せによる複合経営18モデルを提示

「地域特性を活かした多様な複合経営モデル」①（野菜＋水稻）

営農類型	ミニトマト（雨よけ）＋水稻	対象地域	中山間地域（東北以南）
------	---------------	------	-------------

モデルのポイント
果菜類ではポピュラーである野菜（ミニトマト）を主部門とし、水稻（副部門）との複合経営による農地の有効活用を行いつつ、将来的には水田における作付転換による野菜の面積拡大を図り、収益性の向上と更なる経営安定を目指す複合経営

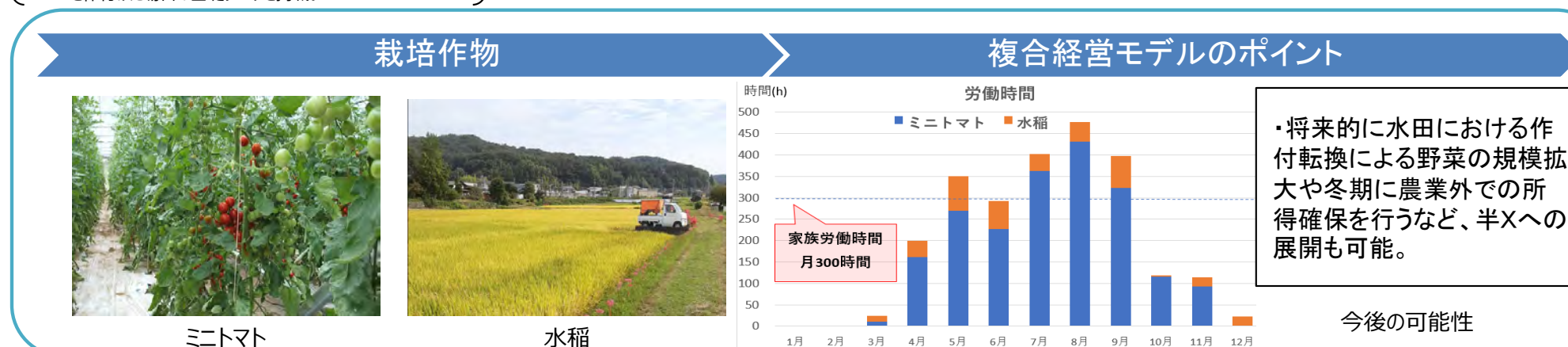
技術・取組の概要
▶ 冷涼な気候を利用し夏から秋にかけての安定生産を図り、将来的には水田における作付転換による野菜の面積拡大や新たな品目の導入に備える ▶ 複合経営モデルの主たる農業者の労働時間と主たる農業者外（補助従事者）の労働時間を合わせた家族労働時間（試算結果）は1,970hr

比較用データ（仮に水稻のみ取組んだ場合）	
【経営形態】	
家族経営 2 名（うち主たる従事者 1 名）	
臨時雇用 0 名	
【経営規模・試算結果】	
水稻	2.2ha
農業所得	104万円
主たる従事者の労働時間	400hr
補助従事者の労働時間	66hr
家族労働時間 計	466hr
（注）複合経営モデルによる農業所得向上等の効果を示すための比較対象として、同程度の経営規模に、仮に水稻のみを作付けた場合の基礎データを掲載。	

複合経営のモデル	
【経営形態】	
家族経営 2 名（うち主たる従事者 1 名）	
臨時雇用 2 名	
【経営規模】	
経営耕地	1.8ha
ミニトマト（雨よけ）	0.2ha
水稻	1.6ha

【試算結果】	
粗収益	1,004万円
経営費	617万円
農業所得	387万円

主たる従事者の労働時間	1,179hr
補助従事者の労働時間	791hr
家族労働時間 計	1,970hr
臨時雇用労働時間	426hr



（注）試算に基づくものであり、必ずしも実態を表すものではない。

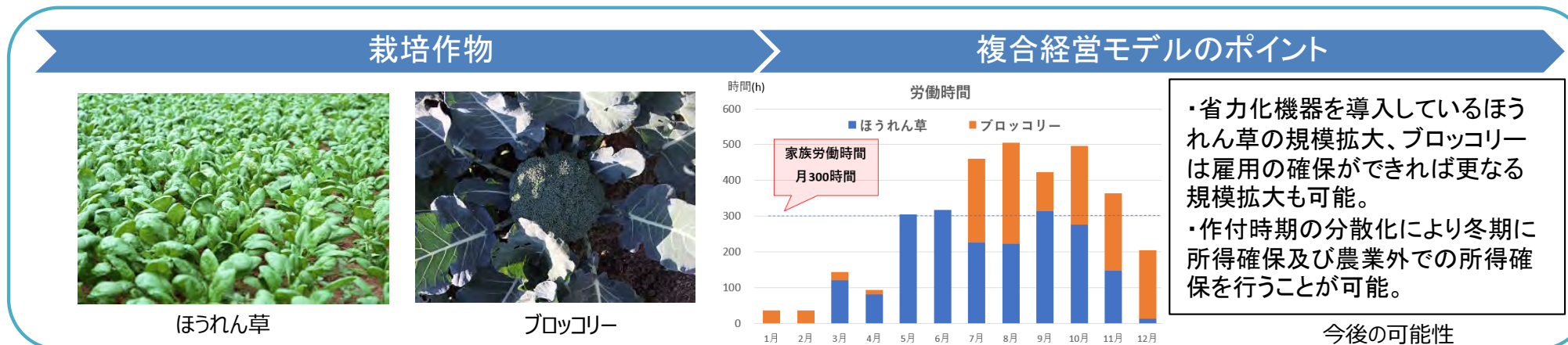
「地域特性を活かした多様な複合経営モデル」②（野菜＋野菜）

営農類型	ほうれん草＋ブロッコリー	対象地域	中山間地域（全国）
------	--------------	------	-----------

モデルのポイント
葉菜類であるほうれん草を施設栽培することで安定生産を図りつつ、需要が高いブロッコリーの露地栽培により更なる収益性の向上を目指す複合経営

技術・取組の概要
➤施設ほうれん草において、収穫機等の導入による省力化を図り、将来的に規模拡大を目指す経営 ➤昨期が短い品目の組み合わせ及び作付時期の分散化による雇用の平準化と収益性の向上を図れる経営 ➤複合経営モデルの主たる農業者の労働時間と主たる農業者外（補助従事者）の労働時間を合わせた家族労働時間（試算結果）は2,505hr

比較用データ（入門段階） 【経営形態】 家族経営 2 名（うち主たる従事者 1 名） 臨時雇用 0 名 【経営規模・試算結果】 ほうれん草 20a 農業所得 141万円 主たる従事者の労働時間 1,136hr 補助従事者の労働時間 497hr 家族労働時間 計 1,633hr 臨時雇用労働時間 0hr	複合経営のモデル 【経営形態】 家族経営 2 名（うち主たる従事者 1 名） 臨時雇用 1 名 【経営規模】 経営耕地 1.6ha ほうれん草 0.4ha ブロッコリー 1.2ha	【試算結果】 粗収益 1,302万円 経営費 944万円 農業所得 358万円 主たる従事者の労働時間 1,510hr 補助従事者の労働時間 1,104hr 家族労働時間 計 2,614hr 臨時雇用労働時間 768hr
--	--	--



（注）試算に基づくものであり、必ずしも実態を表すものではない。

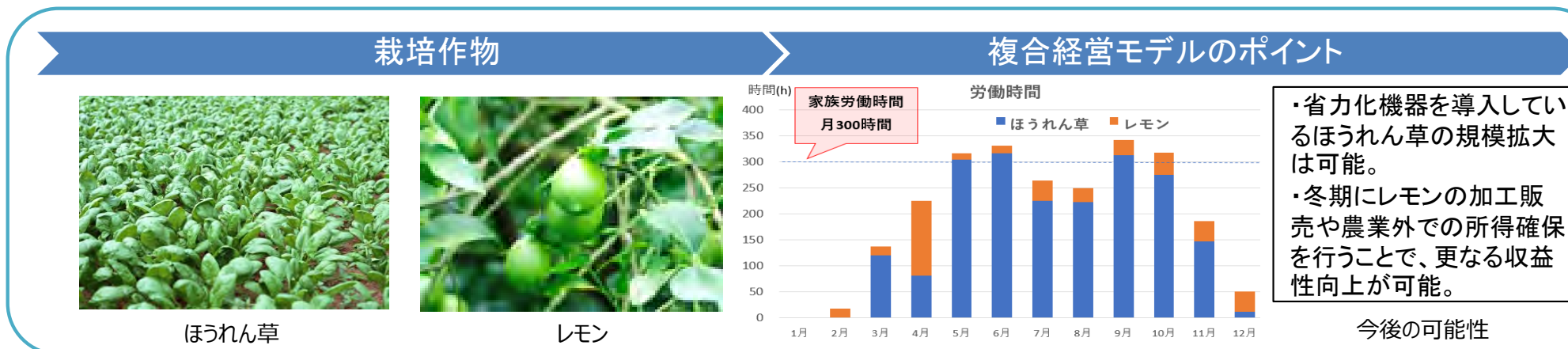
「地域特性を活かした多様な複合経営モデル」③（野菜＋果樹）

営農類型	ほうれん草＋レモン	対象地域	中山間地域（温暖地域）
------	-----------	------	-------------

モデルのポイント
葉菜類であるほうれん草を施設栽培することで安定生産を図りつつ、ほうれん草の農閑期にレモンの出荷等を行うことで周年で収益確保を目指す複合経営

技術・取組の概要
➢施設ほうれん草において、収穫機等の導入による省力化を図り、将来的に規模拡大を目指す経営 ➢ほうれん草の農閑期にレモンの出荷を行い、将来的には加工販売を行うことで更なる収益性向上を目指す経営 ➢複合経営モデルの主たる農業者の労働時間と主たる農業者外（補助従事者）の労働時間を合わせた家族労働時間（試算結果）は2,333hr

比較用データ（入門段階） 【経営形態】 家族経営 2 名（うち主たる従事者 1 名） 臨時雇用 0 名 【経営規模・試算結果】 ほうれん草 20a 農業所得 141万円 主たる従事者の労働時間 1,136hr 補助従事者の労働時間 497hr 家族労働時間 計 1,633hr 臨時雇用労働時間 0hr	複合経営のモデル 【経営形態】 家族経営 2 名（うち主たる従事者 1 名） 臨時雇用 1 名 【経営規模】 経営耕地 0.7ha ほうれん草 0.4ha レモン 0.3ha	【試算結果】 粗収益 1,155万円 経営費 804万円 農業所得 351万円 主たる従事者の労働時間 1,407hr 補助従事者の労働時間 926hr 家族労働時間 計 2,333hr 臨時雇用労働時間 109hr
--	---	--



（注）試算に基づくものであり、必ずしも実態を表すものではない。

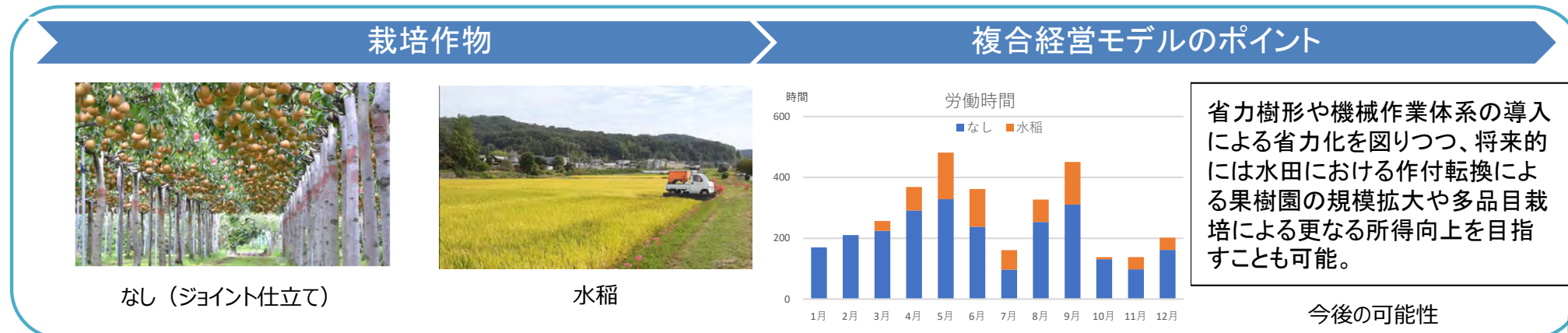
「地域特性を活かした多様な複合経営モデル」④（果樹＋水稻）

営農類型	果樹（なし）＋水稻	対象地域	中山間地域（南東北以西）
------	-----------	------	--------------

モデルのポイント
中山間地域における果樹の基幹代表作物であるなしを主部門、水稻を副部門とし、将来的には水田における作付転換による果樹の面積拡大を図り、収益性の向上や多品目栽培を目指す複合経営

技術・取組の概要
➤全国的に広く栽培可能である「なし」（主部門）と「水稻」（副部門）との複合経営による農業所得の拡大及び経営の安定を目指す ➤なしについては省力樹形（ジョイント仕立て）や機械作業体系の導入による省力化を図り、将来的には水田における作付転換による果樹の面積拡大や新たな品目の導入に備える ➤複合経営モデルの主たる農業者の労働時間と主たる農業者外（補助従事者）の労働時間を合わせた家族労働時間（試算結果）は2,587hr

比較用データ（仮に水稻のみ取組んだ場合）	複合経営のモデル	【試算結果】
【経営形態】 家族経営 2 名（うち主たる従事者 1 名） 臨時雇用 0 名 【経営規模・試算結果】 水稻 3.9ha 農業所得 152万円 主たる従事者の労働時間 650hr 補助従事者の労働時間 101hr 家族労働時間 計 751hr （注）複合経営モデルによる農業所得向上等の効果を示すための比較対象として、同程度の経営規模に、仮に水稻のみを作付けた場合の基礎データを掲載。	【経営形態】 家族経営 2 名（うち主たる従事者 1 名）、臨時雇用 3 名 【経営規模】 経営耕地 3.0ha なし 0.8ha 水稻 2.2ha	粗収益 1,391万円 経営費 979万円 農業所得 412万円 主たる従事者の労働時間 1,747hr 補助従事者の労働時間 840hr 家族労働時間 計 2,587hr 臨時雇用労働時間 394hr



（注）試算に基づくものであり、必ずしも実態を表すものではない。

「地域特性を活かした多様な複合経営モデル」⑤（果樹＋野菜）

営農類型	果樹（ぶどう）＋野菜（施設ミニトマト）	対象地域	中山間地域（南東北以西）
------	---------------------	------	--------------

モデルのポイント
果樹の中でも収益性が高く、輸出への展開も期待できるぶどうを主部門としつつ、全国的に広く栽培可能かつ高収益な施設ミニトマトを副部門とする複合経営により、収益の向上並びに経営安定を図る複合経営

技術・取組の概要
➢収益性が高い「ぶどう」（主部門）と「施設ミニトマト」（副部門）との複合経営による農業所得の拡大及び経営の安定を目指す ➢ぶどう、施設ミニトマトは農繁期が春期～秋期のため、農閑期となる冬期に農外所得（半X）を得るための活動が可能 ➢ぶどうは短梢栽培や機械作業体系の導入による省力化及び労働生産性の向上を図ることで、将来的な規模拡大等にも対応可能 ➢複合経営モデルの主たる農業者の労働時間と主たる農業者外（補助従事者）の労働時間を合わせた家族労働時間（試算結果）は1,553hr

比較用データ（入門段階） 【経営形態】 家族経営 2 名（うち主たる従事者 1 名） 臨時雇用 1 名 【経営規模・試算結果】 ぶどう 40a 農業所得 178万円 主たる従事者の労働時間 598hr 補助従事者の労働時間 342hr 家族労働時間 計 845hr 臨時雇用労働時間 94hr	複合化	複合経営のモデル 【経営形態】 家族経営 2 名（うち主たる従事者 1 名）、臨時雇用 4 名 【経営規模】 経営耕地 67a ぶどう 60a 施設ミニトマト 7a	【試算結果】 粗収益 1,096万円 経営費 698万円 農業所得 398万円 主たる従事者の労働時間 1,092hr 補助従事者の労働時間 461hr 家族労働時間 計 1,553hr 臨時雇用労働時間 560hr
---	-----	--	--

栽培作物

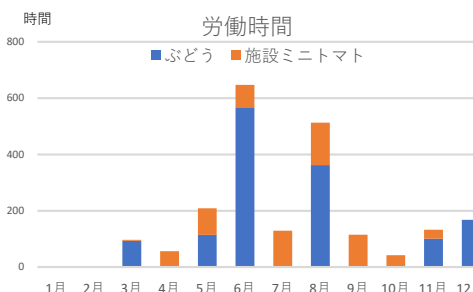


ぶどう



ミニトマト

複合経営モデルのポイント



将来的には経営規模の拡大や、本モデルでは農閑期となる冬期の余剰時間を活用した半Xへの展開も可能。

今後の可能性

「地域特性を活かした多様な複合経営モデル」⑥（果樹＋果樹）

営農類型	果樹（かき）＋果樹（うめ）	対象地域	中山間地域（南東北以西）
------	---------------	------	--------------

モデルのポイント
中山間地域における基幹代表作物であり、干し柿等の加工品への展開も期待できるかきを主部門としつつ、うめ（副部門）との複合経営による経営安定を図り、将来的にはかき、うめ加工品の製造・販売といった6次産業化への発展も視野に入れた複合経営

技術・取組の概要
➤全国的に広く栽培可能である「かき」（主部門）と「うめ」（副部門）との複合経営による農業所得の拡大及び経営の安定を目指す ➤かき、うめは労働ピークである収穫期が異なる（かき：9～11月、うめ：5～6月）ため、労力分散が可能であり、併せて省力化のため機械作業体系の導入を図る ➤かきは干し柿、うめは梅干しや梅酒等、加工品への展開が可能であり、将来的には中山間地域における6次産業化への展開も期待できる ➤複合経営モデルの主たる農業者の労働時間と主たる農業者外（補助従事者）の労働時間を合わせた家族労働時間（試算結果）は2,358hr

比較用データ（入門段階） 【経営形態】 家族経営2名（うち主たる従事者1名） 臨時雇用2名 【経営規模・試算結果】 かき 120a 農業所得 229万円 主たる従事者の労働時間 1,242hr 補助従事者の労働時間 370hr 家族労働時間 計 1,612hr 臨時雇用労働時間 410hr	複合化	複合経営のモデル 【経営形態】 家族経営2名（うち主たる従事者1名）、臨時雇用3名 【経営規模】 経営耕地 2.0ha かき 1.2ha うめ 0.8ha	【試算結果】 粗収益 1,257万円 経営費 851万円 農業所得 406万円 主たる従事者の労働時間 1,551hr 補助従事者の労働時間 807hr 家族労働時間 計 2,358hr 臨時雇用労働時間 993hr
--	------------	--	--



（注）試算に基づくものであり、必ずしも実態を表すものではない。

「地域特性を活かした多様な複合経営モデル」⑦（花き＋水稻）

営農類型

水稻＋花き（りんどう）

対象地域

中山間地域

モデルのポイント

彼岸需要等の市場性が高く、価格が安定し、冷涼な気候を好むりんどうを主部門とし、水稻を副部門とする複合経営。

技術・取組の概要

- ▶ 土壌水分の確保ができるほ場が栽培に適していることから、水稻の転換品目として適している。
- ▶ 施肥管理機の使用による防除・追肥・除草作業の労働強度の負荷軽減により、作業時間の軽減を図ることができる。

比較用データ（仮に水稻のみ取組んだ場合）

【経営形態】

家族経営 2 名（うち主たる従事 1 名）

臨時雇用 0 名

【経営規模・試算結果】

水稻 500a

農業所得 195万円

主たる従事者の労働時間 877hr

補助従事者の労働時間 84hr

家族労働時間 計 961hr

（注）複合経営モデルによる農業所得向上等の効果を示すための比較対象として、同程度の経営規模に、仮に水稻のみを作付けた場合の基礎データを掲載。

複合経営のモデル

【経営形態】

家族経営 2 名（うち主たる従事者 1 名）、臨時雇用 5 名（延べ182名）

【経営規模】

経営耕地 470a

水稻（作物名） 390a

りんどう（作物名） 80a

【試算結果】

粗収益 1,291万円

経営費 904万円

農業所得 387万円

主たる従事者の労働時間 1,442hr

補助従事者の労働時間 808hr

家族労働時間 計 2,250hr

臨時雇用時間 1,451hr

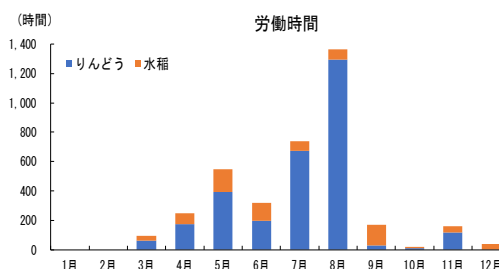
栽培作物



水稻



りんどう



複合経営モデルのポイント

収穫期の異なる品種の導入による作業ピークの分散や、フラワーバインダー、自走式防除機等の導入による作業時間の軽減により、経営規模の拡大や余剰時間を活用した半xへの展開など、更なる所得向上への展開を目指すことも可能。

今後の可能性

（注）試算に基づくものであり、必ずしも実態を表すものではない。

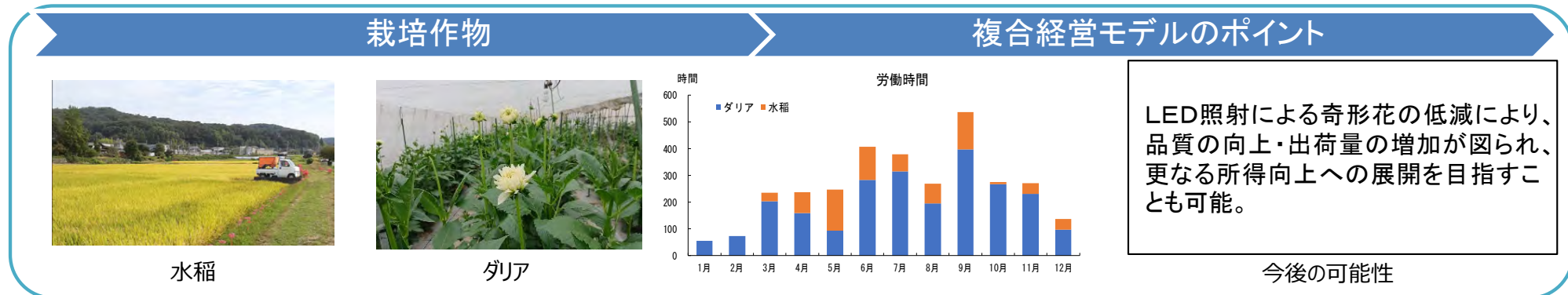
「地域特性を活かした多様な複合経営モデル」⑧（花き＋水稻）

営農類型	水稻＋花き（ダリア）	対象地域	中山間地域
------	------------	------	-------

モデルのポイント
周年採花が可能なダリアを主部門とし、水稻を副部門とする複合経営。

技術・取組の概要
➤施設栽培により周年採花が可能のため、経営の安定化が図られる。 ➤ブライダル需要やフラワーアレンジメントに欠かせない花材として高値で取引されていることから、所得の向上が期待できる。

比較用データ（仮に水稻のみ取組んだ場合）	複合経営のモデル	【試算結果】
【経営形態】 家族経営 2 名（うち主たる従事 1 名） 臨時雇用 0 名 【経営規模・試算結果】 水稻 500a 農業所得 195万円 主たる従事者の労働時間 877hr 補助従事者の労働時間 84hr 家族労働時間 計 961hr	【経営形態】 家族経営 2 名（うち主たる従事者 1 名）、臨時雇用 1 名/日（延べ34名） 【経営規模】 経営耕地 410a 水稻（作物名） 390a ダリア（作物名） 20a	粗収益 1,647万円 経営費 1,241万円 農業所得 406万円 ----- 主たる従事者の労働時間 1,799hr 補助従事者の労働時間 1,059hr 家族労働時間 計 2,858hr 臨時雇用時間 273hr
（注）複合経営モデルによる農業所得向上等の効果を示すための比較対象として、同程度の経営規模に、仮に水稻のみを作付けた場合の基礎データを掲載。		



（注）試算に基づくものであり、必ずしも実態を表すものではない。

「地域特性を活かした多様な複合経営モデル」⑨（茶＋果樹）

営農類型

茶（主部門）＋レモン（副部門）

対象地域

中山間地域（関東以西）

モデルのポイント

➤茶（自園自製自販）を主部門に、レモンを副部門にした複合経営による農業所得の拡大

技術・取組の概要

➤茶にレモンを組み合わせることにより、所得の向上を図る。
➤茶の労働時間の多い5月に作業時間の少ないレモンを組み合わせることで、雇用の確保の負担増を軽減。

比較用データ（入門段階）

【経営形態】

家族経営 2 名（うち主たる従事者 1 名）
臨時雇用 1 名/日（延べ 2 名）

【経営規模・試算結果】

茶	80 a
農業所得	176 万円
主たる従事者の労働時間	1,352 hr
補助従事者の労働時間	225 hr
家族労働時間 計	1,577 hr
雇用労働時間	13 hr

複
合
化

複合経営のモデル

【経営形態】

家族経営 2 名（うち主たる従事者 1 名）、臨時雇
用 1 名/日（延べ 13 名）

【経営規模】

経営耕地	150 a
茶	120 a
レモン	30 a

【試算結果】

粗収益	1,192 万円
経営費	793 万円
農業所得	399 万円

主たる従事者の労働時間	1,742 hr
補助従事者の労働時間	638 hr
家族労働時間 計	2,395 hr
雇用労働時間	98 hr

栽培作物

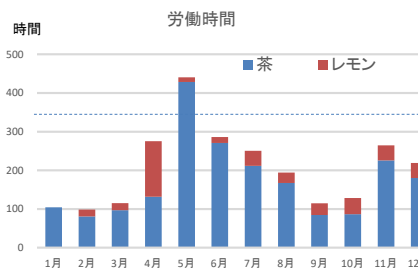


茶畑



レモン

複合経営モデルのポイント



・いずれも傾斜地でも栽培が可能であり、
需要に合わせて茶園から樹園地への転
換が可能。

・補助従事者の余剰時間を活用した加工
販売や農業外での所得確保も可能。

今後の可能性

「地域特性を活かした多様な複合経営モデル」⑩（薬用作物＋水稻）

営農類型

薬用作物(トウキ)(主部門)＋水稻(副部門)

対象地域

中山間地域（全国）

モデルのポイント

薬用作物（トウキ）を新たに導入することにより、雇用労働力を最小限に留め、農業所得を拡大。

技術・取組の概要

- ▶ 冬季に労働時間の多いトウキを主部門に導入することにより、3月に僅かに雇用労働の確保が必要であるが、家族労働のみで所得の向上を図る。
- ▶ 薬用作物の導入に際しては、栽培技術の確立と、販売先の確保が必要。
- ▶ 水田で薬用作物（トウキ）を栽培する場合には、湿害対策を十分にする必要がある。

比較用データ（仮に水稻のみ取組んだ場合）

【経営形態】

家族経営 2 名（うち主たる従事者 1 名）
臨時雇用 0 名

【経営規模・試算結果】

水稻 500a
農業所得 195万円
主たる従事者の労働時間 877hr
補助従事者の労働時間 84hr
家族労働時間 計 961hr

（注）複合経営モデルによる農業所得向上等の効果を示すための比較対象として、同程度の経営規模に、仮に水稻のみを作付けた場合の基礎データを掲載。

複合経営のモデル

【経営形態】

家族経営 2 名（うち主たる従事者 1 名）、臨時雇用 1 名/日（延べ1名）

【経営規模】

経営耕地 490a
トウキ 100a
水稻 390a

【試算結果】

粗収益 833 万円
経営費 401 万円
農業所得 432 万円

主たる従事者の労働時間 1,745 hr
補助従事者の労働時間 387 hr
家族労働時間 計 2,132 hr
雇用労働時間 5 hr

栽培作物

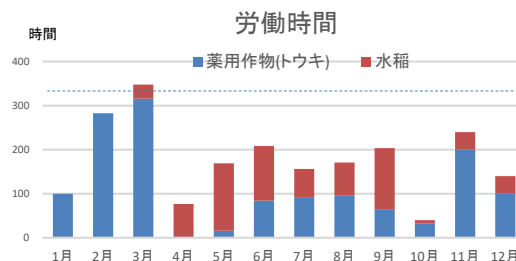


トウキの根



水稻

複合経営モデルのポイント



- ・薬用作物は漢方製剤の原料であり、生薬の需要量は今後とも拡大が見込まれる。
- ・2・3月を除き、補助従事者による農業外での所得確保など、半Xへの展開も可能。

今後の可能性

（注）試算に基づくものであり、必ずしも実態を表すものではない。

「地域特性を活かした多様な複合経営モデル」⑪（薬用作物＋野菜）

営農類型

薬用作物（トウキ）（主部門）＋露地なす（副部門）

対象地域

中山間地域（全国）

モデルのポイント

薬用作物（トウキ）を主部門としつつ、露地なすを導入することにより、雇用労働力の利用を最小限に留めつつ、農業所得を拡大。

技術・取組の概要

- ▶ 冬季に労働時間の多いトウキと、夏季の労働時間の多い夏秋の露地なすを組み合わせることで、労働時間の平準化を図る
- ▶ 薬用作物の導入に際しては、栽培技術の確立と、販売先の確保が必要

比較用データ（入門段階）

【経営形態】

家族経営 2 名（うち主たる従事者 1 名）
臨時雇用 0 名

【経営規模・試算結果】

トウキ 60 a
農業所得 162 万円
主たる従事者の労働時間 903 hr
補助従事者の労働時間 95 hr
家族労働時間 計 999 hr

複
合
化

複合経営のモデル

【経営形態】

家族経営 2 名（うち主たる従事者 1 名）、臨時雇
用 2 名/日（延べ56名）

【経営規模】

経営耕地 120 a
トウキ 100 a
露地なす 20 a

【試算結果】

粗収益 822 万円
経営費 414 万円
農業所得 407 万円

主たる従事者の労働時間 2,000 hr
補助従事者の労働時間 805 hr
家族労働時間 計 2,805 hr
雇用労働時間 442 hr

栽培作物

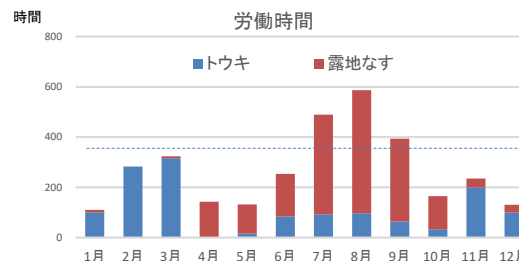


トウキの根



露地なす

複合経営モデルのポイント



- ・薬用作物は漢方製剤の原料であり、生薬の需要量は今後とも拡大が見込まれる。
- ・補助従事者の余剰時間を活用した加工販売や農業外での所得確保も可能。

今後の可能性

「地域特性を活かした多様な複合経営モデル」⑫（薬用作物＋林産物）

営農類型

薬用作物(シャクヤク)(主部門)＋原木しいたけ(副部門)

対象地域

中山間地域（全国）

モデルのポイント

薬用作物（シャクヤク）を主部門としつつ、原木しいたけを導入することにより、雇用労働力の利用を最小限に留めつつ、農業所得を拡大。

技術・取組の概要

- ▶ 少ない労働時間で栽培可能なシャクヤクに、主な収穫時期が異なる原木しいたけを組み合わせることで、中山間地の未利用地の活用と労働分散による経営の安定化を図り、所得の増加を図る
- ▶ 薬用作物の導入に際しては、栽培技術の確立と、販売先の確保が必要

比較用データ（入門段階）

【経営形態】

家族経営 1 名（うち主たる従事者 1 名）
臨時雇用 0 名

【経営規模・試算結果】

シャクヤク 40 a
農業所得 156 万円
主たる従事者の労働時間 566 hr
補助従事者の労働時間 - hr
家族労働時間 計 566 hr

複
合
化

複合経営のモデル

【経営形態】

家族経営 2 名（うち主たる従事者 1 名）、臨時雇用 1 名/日（延べ51名）

【経営規模】

経営耕地 65a
シャクヤク
原木しいたけ ほだ場700㎡

【試算結果】

粗収益 1,045万円
経営費 651万円
農業所得 394万円

主たる従事者の労働時間 2,000hr
補助従事者の労働時間 1,437hr
家族労働時間 計 3,437hr
雇用労働時間 415hr

栽培作物

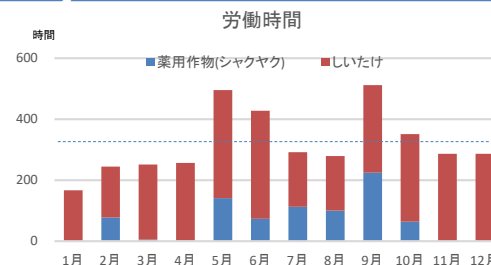


シャクヤクの根



原木しいたけ

複合経営モデルのポイント



- ・薬用作物は漢方製剤の原料であり、生薬の需要量は今後とも拡大が見込まれる。
- ・補助従事者の余剰時間を活用した加工販売や農業外での所得確保も可能。

今後の可能性

薬用作物（生薬）の特徴

- 薬用作物は生薬の原料となる作物で、その一部又は全部が乾燥や簡単な加工を施され、漢方薬等に使用。
- 生産面では、複合経営の一品目として経営の安定化や効率化に役立ち、また、地域農業の振興を図るために必要な作物として重要な役割を果たしている。

薬用作物とは

- ◆ 生薬の原料となる作物であり、根、根茎、茎、葉、花、果実、樹皮などを、利用しやすく、保存や運搬にも便利な形に修治

生薬とは

- ◆ 漢方薬の原料であり、漢方薬は複数の生薬を組み合わせて作られる
- ◆ 生薬は、医薬品医療機器等法上、医薬品として扱われるもの（食品として製造・販売できない）と、医薬品として扱われないもの（食品として製造・販売できる）に区分
- ◆ 生薬を医薬品として使用する場合は、厚生労働大臣が定める日本薬局方の規格基準（形状や薬効成分含量等）を満たした上で、契約先の製薬企業の規格基準も満たす必要

栽培等

- ◆ 種苗は契約先企業から提供される場合が多い（一般の種苗店では入手が難しい）
- ◆ 栽培期間が2年以上のものが多い（収益を得るまでに時間がかかる）
- ◆ 専作経営は少なく、複合経営の一品目として栽培している場合が多い
- ◆ 機械化の遅れや登録農薬が少ないため、手作業が多い
- ◆ 「薬用植物の栽培と採取、加工に関する手引き」（GACP）に基づき栽培等を実施
- ◆ 産地で収穫後に洗浄、乾燥、ひげ根等の除去、選別、湯揉み等の一次加工や調製を行い出荷

流通・価格

- ◆ 取引市場がないため、製薬企業との契約栽培による直接取引（契約までに試験栽培（生産性、品質等の評価）が必要）
- ◆ 安定した価格で取引できるが、薬価（公定価格）の影響を受ける（採算性の確保が難しい面がある）

「地域特性を活かした多様な複合経営モデル」⑬（肉用牛＋水稻）

営農類型	肉用牛（繁殖）（主部門）＋水稻（副部門）	対象地域	全国
------	----------------------	------	----

モデルのポイント
肉用牛の繁殖経営を主部門、水稻を副部門とした複合経営により農業所得を拡大

技術・取組の概要
➢繁殖雌牛頭数を増やし、農業所得の拡大を行う。 ➢複合経営モデルの主たる農業者の労働時間と主たる農業者外（補助従事者）の労働時間を合わせた家族労働時間（試算結果）は1,355hr

比較用データ（入門段階）

【経営形態】
家族経営 2 名（うち主たる従事者 1 名）
臨時雇用 0 名

【経営規模・試算結果】
繁殖雌牛 2～5 頭、水稻 2.2 ha
農業所得 200 万円
主たる従事者の労働時間 770 hr
補助従事者の労働時間 70 hr
家族労働時間 計 840 hr

収益強化

複合経営のモデル

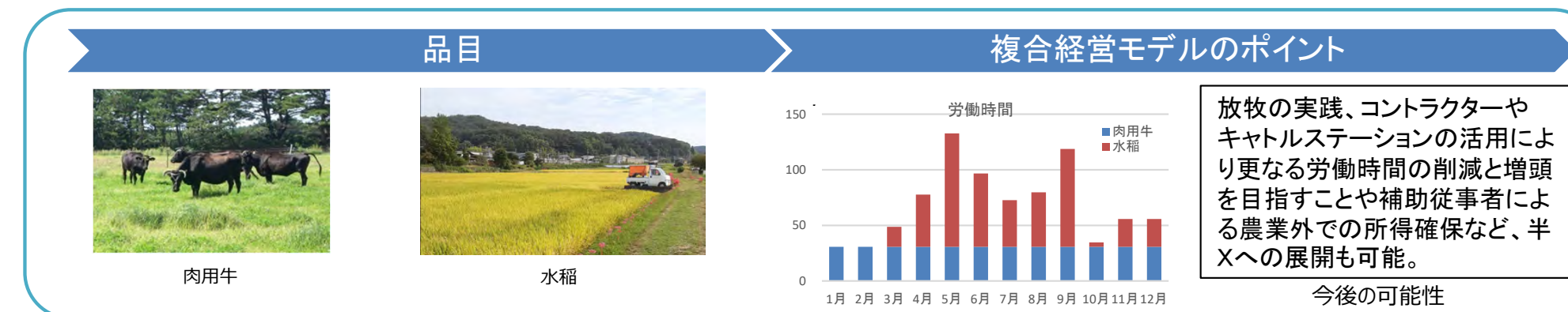
【経営形態】
家族経営 2 名（うち主たる従事者 1 名）
臨時雇用 0 名

【経営規模】
繁殖雌牛 10～20頭
水稻 2.2ha

【試算結果】

粗収益 1,358万円
経営費 880万円
農業所得 478万円

主たる従事者の労働時間 1,243hr
補助従事者の労働時間 112hr
家族労働時間 計 1,355hr



（注）試算に基づくものであり、必ずしも実態を表すものではない。

「地域特性を活かした多様な複合経営モデル」⑭（肉用牛＋野菜）

営農類型	肉用牛（繁殖）（主部門）＋野菜（副部門）	対象地域	全国
------	----------------------	------	----

モデルのポイント
肉用牛の繁殖経営を主部門に、野菜を副部門となっている複合経営の農業所得の拡大

技術・取組の概要
➢繁殖雌牛頭数を増やし、農業所得の拡大を行う。 ➢複合経営モデルの主たる農業者の労働時間と主たる農業者外（補助従事者）の労働時間を合わせた家族労働時間（試算結果）は1,797 hr

比較用データ（入門段階）

【経営形態】
家族経営 2 名（うち主たる従事者 1 名）
臨時雇用 0 名

【経営規模・試算結果】
繁殖雌牛 2～5 頭、ブロッコリー 80 a
農業所得 200 万円
主たる従事者の労働時間 1,231 hr
補助従事者の労働時間 46 hr
家族労働時間 計 1,277 hr

収益強化

複合経営のモデル

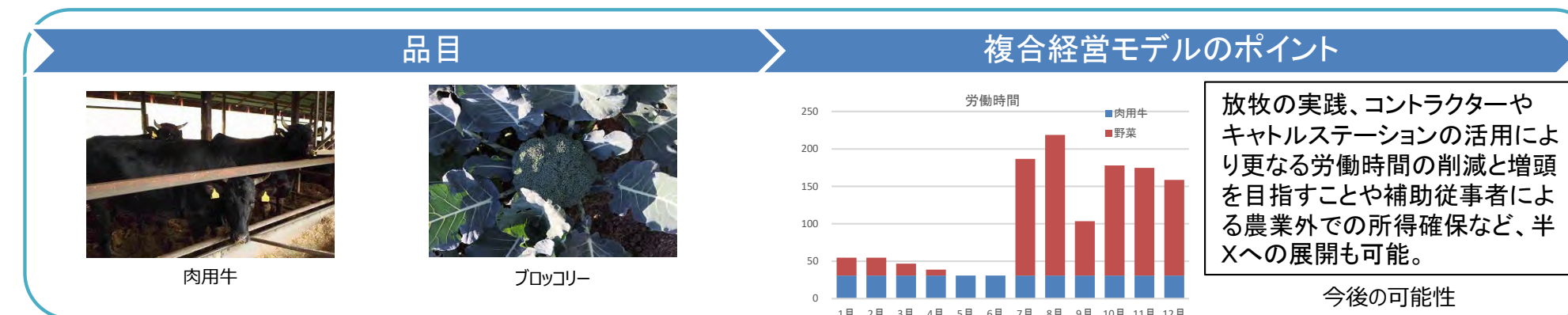
【経営形態】
家族経営 2 名（うち主たる従事者 1 名）
臨時雇用 0 名

【経営規模】
繁殖雌牛 10～20頭
ブロッコリー 80 a

【試算結果】

粗収益	1,342万円
経営費	905万円
農業所得	437万円

主たる従事者の労働時間	1,707 hr
補助従事者の労働時間	90 hr
家族労働時間 計	1,797 hr



（注）試算に基づくものであり、必ずしも実態を表すものではない。

「地域特性を活かした多様な複合経営モデル」⑮（肉用牛＋果樹）

営農類型	肉用牛（繁殖）（主部門）＋果樹（副部門）	対象地域	全国
------	----------------------	------	----

モデルのポイント
肉用牛の繁殖経営を主部門に、果樹を副部門となっている複合経営の農業所得の拡大

技術・取組の概要
➢繁殖雌牛頭数を増やし、農業所得の拡大を行う。 ➢複合経営モデルの主たる農業者の労働時間と主たる農業者外（補助従事者）の労働時間を合わせた家族労働時間（試算結果）は1,939 hr

比較用データ（入門段階）

【経営形態】
家族経営 2 名（うち主たる従事者 1 名）
臨時雇用 0 名

【経営規模・試算結果】
繁殖雌牛 2～5 頭、かき90 a
農業所得 178 万円
主たる従事者の労働時間 1,339 hr
補助従事者の労働時間 80 hr
家族労働時間 計 1,419 hr

収益強化

複合経営のモデル

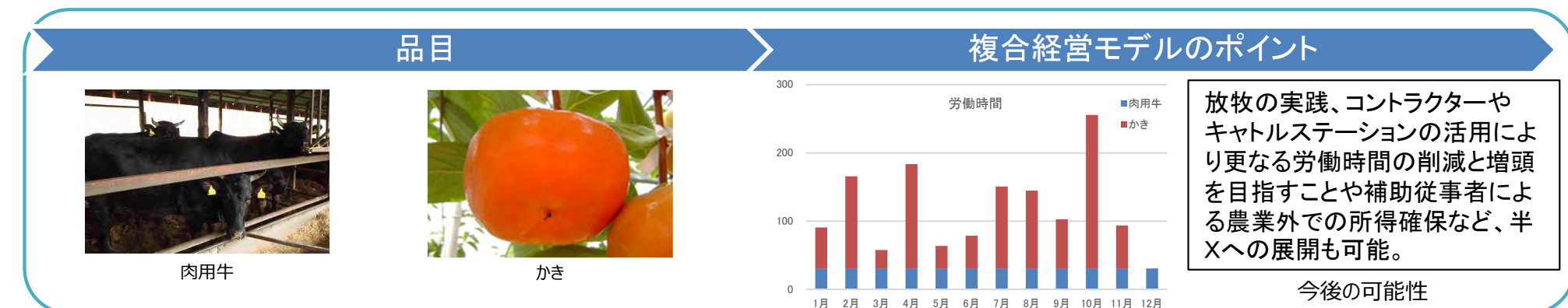
【経営形態】
家族経営 2 名（うち主たる従事者 1 名）
臨時雇用 0 名

【経営規模】
繁殖雌牛 10～20頭
かき90 a

【試算結果】

粗収益	1,422万円
経営費	970万円
農業所得	452万円

主たる従事者の労働時間	1,815hr
補助従事者の労働時間	124hr
家族労働時間 計	1,939hr



（注）試算に基づくものであり、必ずしも実態を表すものではない。

「地域特性を活かした多様な複合経営モデル」⑩（肉用牛＋林業）

営農類型	肉用牛（繁殖）（主部門）＋林業（副部門）	対象地域	全国
------	----------------------	------	----

モデルのポイント
肉用牛の繁殖経営を主部門に、林業を副部門となっている複合経営の農業所得の拡大

技術・取組の概要
➢繁殖雌牛頭数を増やし、農業所得の拡大を行う。 ➢複合経営モデルの主たる農業者の労働時間と主たる農業者外（補助従事者）の労働時間を合わせた家族労働時間（試算結果）は1,800 hr

比較用データ（入門段階）

【経営形態】
家族経営 2 名（うち主たる従事者 1 名）
臨時雇用 0 名

【経営規模・試算結果】
繁殖雌牛 2～5 頭、ほだ場 300 m²
農業所得 163 万円
主たる従事者の労働時間 1,278 hr
補助従事者の労働時間 2 hr
家族労働時間 計 1,280 hr

収益強化

複合経営のモデル

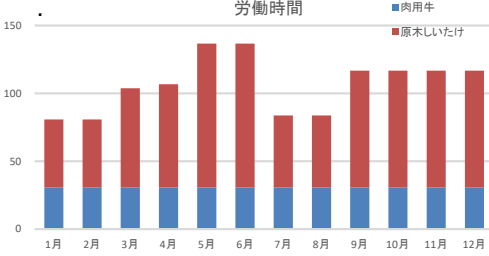
【経営形態】
家族経営 2 名（うち主たる従事者 1 名）
臨時雇用 0 名

【経営規模】
繁殖雌牛 10～20頭
ほだ場 300 m²

【試算結果】

粗収益	1,342万円
経営費	905万円
農業所得	437万円

主たる従事者の労働時間	1,754 hr
補助従事者の労働時間	46 hr
家族労働時間 計	1,800 hr

品目	複合経営モデルのポイント
 肉用牛  原木しいたけ	 労働時間 ■肉用牛 ■原木しいたけ 放牧の実践、コントラクターやキャトルステーションの活用により更なる労働時間の削減と増頭を目指すことや補助従事者による農業外での所得確保など、半Xへの展開も可能。 今後の可能性

（注）試算に基づくものであり、必ずしも実態を表すものではない。

「地域特性を活かした多様な複合経営モデル」⑰（林業＋野菜）

営農類型

林業（スギ）（主部門）＋野菜（ミニトマト）（副部門）

対象地域

中山間地域（東北以南）

モデルのポイント

所有山林または作業受託した山林の間伐作業を主部門としつつ、全国的に広く栽培可能かつ高収益な施設ミニトマトを副部門とする複合経営モデルにより、収益の向上並びに経営安定を図る。スギは、林業でも代表的な樹種であり、北海道を除き人工林の主要樹種であること、また、ミニトマトは果菜類として、全国的に作られている作物の一つであるため、東北以南の地域において取り組むことが可能と考える。

技術・取組の概要

- 「林業（間伐）」（主部門）と全国的に栽培されている「ミニトマト」（副部門）との複合経営による農林業所得の拡大
- 梅雨期である6月～7月は伐採木が傷みやすいことや山での作業の安全面を考慮して伐採を行わないことから、この時期に作業量が大きくなるミニトマトを組み合わせた。
- 林業、農業にそれぞれ家族1名が就き、作業の無い時期はお互いに補助に廻るとともに、繁忙期には臨時雇用により手当てする。

比較用データ（入門段階）

【経営形態】

家族経営 2名（うち主たる従事者 1名）
臨時雇用 0名

【経営規模・試算結果】

スギ（間伐） 8.0ha
林業所得 163万円
主たる従事者の労働時間 1,500hr
補助従事者の労働時間 1,060hr
家族労働時間 計 2,560hr

複
合
化

複合経営のモデル

【経営形態】

家族経営 2名（うち主たる従事者 1名）、臨時雇用 1～3名/日（林 1、農 2）（延べ168名）

【経営規模】

スギ（間伐） 8.0ha
経営耕地 ミニトマト 20a

【試算結果】

粗収益 1,020万円
経営費 604万円
農林業所得 416万円

主たる従事者の労働時間 1,770hr
補助従事者の労働時間 1,526hr
家族労働時間 計 3,296hr
雇用労働時間 1,257hr

栽培作物

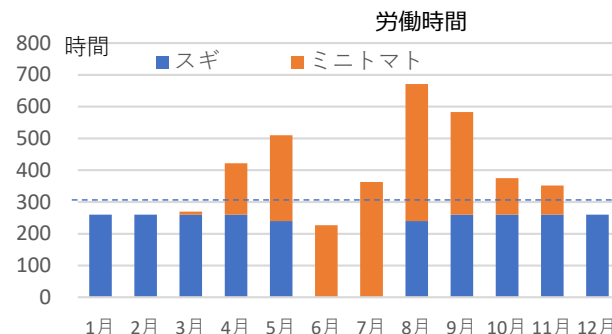


スギ（間伐）



ミニトマト（施設）

複合経営モデルのポイント



将来的には、林内作業車の導入等による作業の効率化や、余剰時間を活用した半Xへの展開など、更なる所得向上への展開を目指すことも可能。

今後の可能性

「地域特性を活かした多様な複合経営モデル」⑱（林業＋果樹）

営農類型

林業（原木しいたけ）＋果樹（ブルーベリー）

対象地域

中山間地域（全国）

モデルのポイント

中山間地域で一般的に生産されている原木しいたけと収穫期が異なり、栽培管理が比較的少ないブルーベリーとの複合経営により、生産性の向上や所得拡大を目指す

技術・取組の概要

- ▶「原木しいたけ」（主部門）と比較的栽培管理が容易な「ブルーベリー」（副部門）との複合経営による農業所得の拡大
- ▶原木しいたけの主な収穫期（1月～4月、10月～12月）とブルーベリーの収穫期（6月～8月）との労働分散による家族経営の安定化。
- ▶複合経営モデルの主たる農業者の労働時間と主たる農業者外（補助従事者）の労働時間を合わせた家族労働時間（試算結果）は3,539 hr

比較用データ（入門段階）

【経営形態】

家族経営 2 名（うち主たる従事者 1 名）
臨時雇用 1 名/日（延 13.5 名）

【経営規模・試算結果】

原木しいたけ 0.07ha
農業所得 177万円
主たる従事者の労働時間 1,800hr
補助従事者の労働時間 1,140hr
家族労働時間 計 2,940hr

複
合
化

複合経営のモデル

【経営形態】

家族経営 2 名（うち主たる従事者 1 名）、臨時雇用
1～4 名/日（延 247 名）

【経営規模】

経営耕地 0.5ha
原木しいたけ 0.1ha
ブルーベリー 0.4ha

【試算結果】

粗収益 1,520万円
経営費 1,120万円
農業所得 400万円

主たる従事者の労働時間 1,800hr
補助従事者の労働時間 1,739hr
家族労働時間 計 3,539hr
雇用労働時間 1,758hr

栽培作物

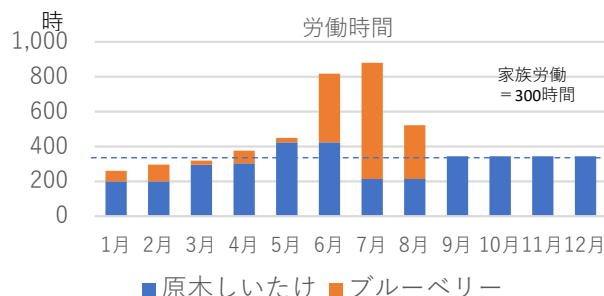
複合経営モデルのポイント



原木しいたけ



ブルーベリー（露地）



農業所得約400万円を維持しつつ、多孔式自動穿孔機等の導入による作業時間の軽減により、農業外での所得確保が可能。また、しいたけのブランド化や観光農園の開設などに取り組むことにより農業所得の拡大を目指すことも可能。

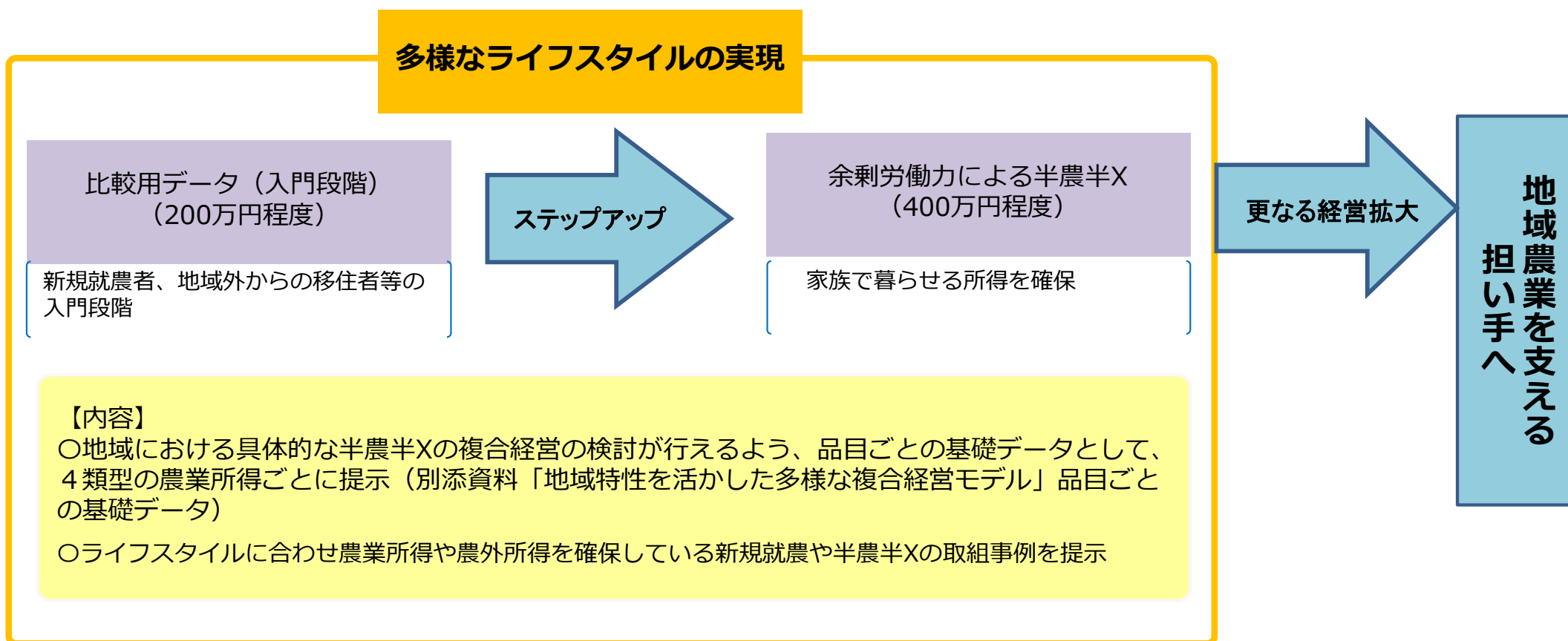
今後の可能性

「地域特性を活かした多様な複合経営モデル」を活用した多様なライフスタイルの実現

ライフスタイルに合わせ農業所得や農外所得を確保している新規就農者（1事例）、半農半Xの取組事例（3事例）

「地域特性を活かした多様な複合経営モデル」の活用の考え方

- 中山間地域等においては、人口減少・高齢化が深刻化しており、地域農業の担い手の裾野の拡大が必要。
- 他方、中山間地域では、地域特性を活かした様々な経営の組み合わせにより、ライフスタイルに合わせて所得を確保しているケースも出てきている。
- 地域特性を活かした多様な複合経営のモデルを活用し、農外所得を活かした半農半Xによる多様なライフスタイルを実現することも可能



「地域特性を活かした多様な複合経営モデル」 取組事例①

①地域とのつながりを活かした新規就農(移住)の取組事例 濱山幸波氏【宮崎県高千穂町】

実施主体の概要

- ・きゅうり(露地) 12a
- ・花き(ラナンキュラス、りんどう) 12a
- ・水稻 20a
- ・農業所得(粗収益－経営費)
600万円/年－433万円/年
＝ 167万円/年



ラナンキュラス生産部会のみなさん



ラナンキュラスハウスでの濱山さん



りんどう栽培(平張ネットハウス)

取組の特徴

- ・小規模の稲作と野菜、花卉を組み合わせて経営。
- ・農業大学校卒業後、自分がやりたい地域の景観・文化をみんなで協力して守っていくような集落営農とは違う農業を経験しようと、大規模法人に就農。2年間そこで働く間に月1回程度高千穂町に通い移住等の準備を進めた。
- ・農業機械の共同利用などの「農事組合法人高千穂かわのぼり」が就農1年前に設立されたため、農地や機械を法人から借りることができ、理想の農業に挑戦できると思い移住を決意。学校では野菜を勉強していたため、最初は野菜での営農を計画していたが、冬の作業が無いと生活が出来ないと考え花き(ラナンキュラス)を加えた。平成27年からはラナンキュラス生産部会に加入し、会員間で切磋琢磨し技術の向上を図っている。また、りんどうは去年から栽培を始めている。

取組の工夫・効果

- ・農地は農地中間管理機構を介して使用貸借。水稻作業の機械は全て法人からのレンタル。現在4棟のハウスを保有し、最初の1つは攻めの農業実践緊急対策事業で設置。3棟は中古ハウスで、町単独事業(上限30万円)を受けて設置。青年就農給付金は1年半準備型を受給し、その後、5年間経営開始型を受給。
- ・ビニールハウスで音楽ライブを開催するなど自然体を意識。自らの経営は、今後も現状維持とし農事組合法人高千穂かわのぼりの活性化に力を入れる予定。その活性化された姿を見せて、若い専業農家を増やすことが将来の目標。

「地域特性を活かした多様な複合経営モデル」取組事例②

②半農半X(周年雇用型)の取組事例

金田信治氏【島根県津和野町】

実施主体の概要

- ・野菜(とうがらし)0.3a
- ・半X 農業法人雇用(4月～10月)
- ・半X 酒造会社勤務(11月～3月)
- ・農業所得(粗収益) 10万円/年
- ・農外所得(妻を含む)250万円/年



集落の草刈り作業



酒造会社での金田さん

取組の特徴

- ・野菜(とうがらし)栽培に取組みながら、夏場は集落営農法人の研修生として冬場は酒造会社に勤務。
- ・東京農業大学在学中に参加した新農業人フェアで最初に着席したのが津和野町ブース。町担当者の話を聞き2週間の移住体験を決意。その後、島根県の定住財団で産業体験を1年間、半農半X研修を1年間行い、最初のフェア相談から3年かけて定住にいたった。
- ・それまで農業はやったことがなく、半農半X研修の対応をしてくれた県普及員が地域特産の甘長(あまなが)とうがらしの栽培を丁寧に教えてくれた。地元の農家の人は習うより慣れろで生活のことも気にかけてくれたり非常に助かった。研修先であった集落営農法人の作業を続けている。就農して2年目に移居前(神奈川県)からの彼女と結婚し現在は2人で生活している。

取組の工夫・効果

- ・4月から10月は集落営農法人で働きながら(4月稲苗育苗、5月田植え草刈り、7月広域連携法人のヘリ防除、9月稲刈り、10月山林の手伝い)、比較的暇のある6月はとうがらしの管理に、8月は収穫・出荷(JA共販)に充てている。この期間は日曜日ともう1日休みを取るようになっている。11月から3月は酒蔵に週6日で1日7時間働く。妻は農業には携わらず年間を通じ福祉施設でバイトしている。
- ・就農して4年となるが自営農業の経営者になろうとは思っていない。集落営農の縁の下の力持ちになりたいと思っている。地域に必要とされる草刈りとか、収穫した粳の運搬とか手伝うことが好き。集落営農法人「おくがの」の研修生として地域の人に覚えてもらった今、集落からも将来の法人の核として期待されており、地域の一員として集落営農法人や酒蔵の仕事をこれからも続けていきたいと思っている。

「地域特性を活かした多様な複合経営モデル」取組事例③

③半農半X(季節雇用型)から専業化への取組事例

柿元信次氏【島根県浜田市】

実施主体の概要

- ・ぶどう(ピオーネほか) 54a
- ・野菜(スイートコーンほか) 90a
- ・半X 除雪作業(12月～3月)
- ・農業所得(粗収益－経営費)
1,170万円/年－620万円/年
＝ 550万円/年
- ・農外所得 90万円/年



柿元ご夫妻（ブドウ園）



野菜畑での柿元さん

取組の特徴

- ・ぶどう(ピオーネ、マスカット)を主力に夏場のスイートコーンを組み合わせて経営。冬場は高速道路の除雪作業に契約社員として勤務。
- ・愛知県でサラリーマンをしながら就農に関する情報を収集。農業生産で家族を養うことを望み、独立自営できる候補地を検討。研修時の支援策等から島根県での半農半X研修を選択し、浜田市のふるさと農業研修生第1号として移住。当初は妻と子供1人でスタート(奥様は研修生としては移住せず育児に専念)。現在は子供さんは4名に増え、奥様の両親も近所に呼び寄せている。住居は浜田市が斡旋した空き家を借りて生活。
- ・研修先でぶどう栽培を学び、将来の経営の柱にすることを決める。農業普及員、JA指導員の指導を受けながらぶどう樹が成長するまでの収入源として色々な野菜に取組み、定植時期を分散し収穫期をずらした直売や早朝収穫がライフスタイルにも合致したスイートコーンとの複合経営を選択。就農5年目にはぶどう面積が54aとなり、将来の夢である顔の見える直接販売ができる見通しができ現在にいたる。

取組の工夫・効果

- ・収穫したものをその日のうちに顧客へ届けることが顧客との信頼構築に必要不可欠と考え、経営継続補助金を活用したぶどうの出荷段ボールの梱包機を導入。また、ぶどう、朝どりのスイートコーンは自宅前での直売、ネット等による受注宅配やJA産直、スーパー直売コーナーで販売している。農作業は妻、妻の両親を含めて4人、家族労働の勤務時間を記録して報酬を渡している。
- ・令和元年度(就農9年目)農業販売額が初めて1,000万円を超えた。地域からの雇用等は現状の経営規模と季節労働では難しいとも考えている。将来的には専業化し法人化等も視野に入れており、当面は現状で資金をためて、ぶどうの規模拡大の準備を進めている。

「地域特性を活かした多様な複合経営モデル」取組事例④

④半農半X(自営業型)の取組事例

石川翔氏・美緒氏【徳島県勝浦町】

実施主体の概要

- ・かんきつ類(温州みかん、スダチ) 40a
- ・半X 民宿、古民家の床張り、古本屋、他
- ・農業所得(販売額) 420万円/年
- ・農外所得(売上額) 105万円/年



温州みかんの収穫



「みかん農家の宿 あおとく」



古民家の床張り事業

取組の特徴

- ・温州みかんを中心に、農泊、床張り、古本屋などの小さな生業(なりわい)を組み合わせる新しいライフスタイルを実現。
- ・5年前(H27)に勝浦町の「求む！ミカン農家の後継者」の募集をみて東京から会社を辞めて夫婦で移住。みかん農家の畑と家を継いで営農を始めるとともに、農家からみかん栽培技術や地域で生活するうえでのルール、知恵なども教わった。
- ・収入の約8割は農業。11月から3月頃までが収穫の繁忙期。繁忙期以外の農作業の合間に、農業以外の事業として大きく行っているのが3年前(H29)から始めた民宿。民宿の利用者は主にウェブサイトからで日本と海外の利用者が半々。他に、床張りのワークショップ、自宅の一部を改装した古本屋、テントの中に薪ストーブを入れてサウナ状態にするテントサウナ、地域のお祭り等での屋台の出店といった事業を行っている。

取組の工夫・効果

- ・R元年の売上げは農業が420万円、宿が85万円、古本屋は8万円、床張り7万円、屋台5万円。ほかに、青年就農給付金を夫婦で受給しており、今年で受給最終年になる。青果販売が伸びてきており給付金が切れた後でも収入は現状を上回る見込み。
- ・定住や営農継承できたポイントとして、自分たちがしっかりどういう生活をしたいか思い描き、理想と現実の間を埋めるために地域や農業のデータを集めたこと。また、これまでの営農をそのまま実行したこと。外的要因としては、移住担当者による様々なサポートや就農給付金があったこと。町の移住お試しハウスという施設が便利だったことや、地域の方々とのいい距離感があったことも良かった。
- ・今後の展望として樹園地を拡大して経営を安定させたい。民宿、本屋の売上げを上げるよりは、お客さんの満足度を上げることや、農業との兼ね合いで負担を軽減することを考えている。

「地域特性を活かした多様な複合経営モデル」 品目ごとの基礎データ

水稻、野菜、果樹、花き、工芸作物、畜産、林業
計19品目の基礎データ

基礎データ一覧

部門	作物名	作物選定理由
水稲	水稲	一般作物。
野菜	露地なす（夏秋）	果菜類として、基幹作物の一つであるため。
	施設ミニトマト（雨よけ夏秋）	果菜類として、全国的に作られている基幹作物の一つであるため。
	施設ほうれんそう（年4作）	葉物野菜として、年中需要があるため。また1作が短く災害による影響を回避しやすい。
	露地ブロッコリー	全国的に作付けがされており、また引き合いが強い品目のため。
果樹	ぶどう	全国的に広く栽培可能であり、果樹において高収益が期待できる品目であるため。
	なし	全国的に広く栽培可能な果樹の品目であるため。
	かき	中山間地域における果樹の基幹代表作物のひとつであるため。
	ブルーベリー	栽培管理に要する労力が他の果樹品目と比較して少ないため。
	レモン	栽培管理に要する労力が他の果樹品目と比較して少ないため。
	うめ	果実加工品への展開が期待できる品目であるため。
花き・花木	りんどう	彼岸需要等の市場性が高く、価格が安定。
	ダリア	施設栽培により周年採花が可能で、経営が安定。
工芸作物	茶（自園自製自販）	中山間でも生産可能であり、今後の生産の増加が見込める品目であるため。
	薬用作物（シャクヤク）	寒暖いずれの地域でも生育する広域適応性がある地域特産物のため。
	薬用作物（トウキ）	寒暖いずれの地域でも生育する広域適応性がある地域特産物のため。
畜産	繁殖経営	畜種の中でも専業率の低い畜種であること、酪肉近や基本計画でも目指すべき姿を公表している畜種であることなどから、繁殖経営を選択。
林業	スギ	林業で代表的な樹種であり中山間地域でも主要な樹種と考えられるため。
	原木しいたけ	特用林産物の中でも比較的中山間地域における複合経営が多い品目であると想定されるため。

基礎データ（水稻）

【作物作型】： 水稻 【作物選定理由】： 一般作物

		1類			2類			3類			4類			備 考		
		目標50万円			100万円			150万円			200万円					
農業部門労働時間		403			466			751			961					
農 業 所 得	粗収益（万円）	193			266			471			604					
	経費（万円）	142			162			319			409					
	所得（万円）	52			104			152			195					
経営規模（a、頭、等）		1. 6ha			2. 2ha			3. 9ha			5. 0ha			育苗ハウス、播種機、トラクター、田植機、コンバイン、乾燥機、粃すり機		
作業名（大分類）		← 育苗 → ← 田植え → ← 収穫、乾燥 → ← 耕起 → ← 中間管理（追肥、除草、水管理、防除） → ← 耕起、基肥 →														
月別労働時間（h）		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	備 考	
1類	労働時間（基幹）	0	0	7	37	40	35	20	26	40	4	22	22	253		
	労働時間（補助）	0	0	7	0	40	30	19	20	34	0	0	0	150		
	計	0	0	14	37	80	65	39	46	74	4	22	22	403		
2類	労働時間（基幹）	0	0	18	47	70	60	42	49	60	4	25	25	400		
	労働時間（補助）	0	0	0	0	32	6	0	0	28	0	0	0	66		
	計	0	0	18	47	102	66	42	49	88	4	25	25	466		
3類	労働時間（基幹）	0	0	32	77	100	116	64	74	100	7	40	40	650		
	労働時間（補助）	0	0	0	0	53	8	0	0	40	0	0	0	101		
	計	0	0	32	77	153	124	64	74	140	7	40	40	751		
4類	労働時間（基幹）	0	0	40	98	150	150	82	95	149	9	52	52	877		
	労働時間（補助）	0	0	0	0	46	8	0	0	30	0	0	0	84		
	計	0	0	40	98	196	158	82	95	179	9	52	52	961		

備考（１）作物は一般作物（代表的作物）の他、省力作物、特産物、有望・奨励作物なども考慮して選定（「作物選定理由」もこの視点で簡潔に記載）。

（２）農業所得、労働時間は、基本計画の経営モデル策定時の基礎データ等を活用して算出（統計データの基準年（H29年度）は原則合わせること）。

基礎データ（露地なす（夏秋））

【作物作型】：露地なす（夏秋）

【作物選定理由】：果菜類として、基幹作物の一つであるため。

		1類		2類		3類		4類		備 考			
		目標50万円程度		100万円程度		150万円～200万円程度		250万円～350万円程度					
農 業 所 得	粗収益（万円）	184		276		460				・労働時間（補助）において、月150時間未満は家族労働。月150時間超える分は臨時雇用で1時間1,000円で計上。			
	経費（万円）	130		179		309							
	所得（万円）	54		97		151							
経営規模（a、頭、等）		8a		12a		20a				トラクター・軽トラック・管理機・動力噴霧機・灌水設備・作業場・農機具格納舎			
作業名（大分類）		◎ </											

備考（１）作物は一般作物（代表的作物）の他、省力作物、特産物、有望・奨励作物なども考慮して選定（「作物選定理由」もこの視点で簡潔に記載）。

（２）農業所得、労働時間は、基本計画の経営モデル策定時の基礎データ等を活用して算出（統計データの基準年（H29年度）は原則合わせること）。

基礎データ（施設ミニトマト（雨よけ夏秋））

【作物作型】：施設ミニトマト（雨よけ夏秋） 【作物選定理由】：果菜類として、全国的に作られている基幹作物の一つであるため。

		1類		2類		3類		4類		備 考					
		目標50万円程度		100万円程度		150万円～200万円程度		250万円～350万円程度							
農 業 所 得	粗収益（万円）	203		284		405		811		・施設以外の減価償却費は10a分と同等。 ・労働時間（補助）において、月150時間未満は家族労働。月150時間超える分は臨時雇用で1時間1,000円で計上。					
	経費（万円）	142		180		239		454							
	所得（万円）	61		104		166		357							
経営規模（a、頭、等）		5a		7a		10a		20a		トラクター・軽トラック・管理機・動力噴霧機・養液土耕システム・ビニールハウス・作業場・農機具格納舎					
作業名（大分類）		←育苗管理 ◎定植 →肥培管理 ■収穫													
月別労働時間（h）		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	備 考
1類	労働時間（基幹）	0	0	3	41	68	57	91	108	81	29	23	0	498	
	労働時間（補助）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	計	0	0	3	41	68	57	91	108	81	29	23	0	498	家族2名
2類	労働時間（基幹）	0	0	4	57	95	79	127	150	113	40	32	0	697	
	労働時間（補助）	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	
	計	0	0	4	57	95	79	127	151	113	40	32	0	698	家族2名
3類	労働時間（基幹）	0	0	5	81	135	114	150	150	150	58	46	0	888	
	労働時間（補助）	0	0	0	0	0	0	32	66	12	0	0	0	109	
	計	0	0	5	81	135	114	182	216	162	58	46	0	997	家族2名
4類	労働時間（基幹）	0	0	10	150	150	150	150	150	150	115	92	0	1117	
	労働時間（補助）	0	0	0	12	120	77	213	281	173	0	0	0	876	
	計	0	0	10	162	270	227	363	431	323	115	92	0	1993	家族2名＋臨時雇用 1 名

備考（１）作物は一般作物（代表的作物）の他、省力作物、特産物、有望・奨励作物なども考慮して選定（「作物選定理由」もこの視点で簡潔に記載）。

（２）農業所得、労働時間は、基本計画の経営モデル策定時の基礎データ等を活用して算出（統計データの基準年（H29年度）は原則合わせること）。

基礎データ（施設ほうれんそう（年4作））

【作物作型】：施設ほうれんそう（年4作）

【作物選定理由】：葉物野菜として、年中需要があるため。また1作が短く災害による影響を回避しやすい。

		1類			2類			3類			4類（省力化機器利用）			備 考	
		目標50万円程度			100万円程度			150万円～200万円程度			250万円～350万円程度				
農 業 所 得	粗収益（万円）	227			341			454			909			・施設以外の減価償却費は10a分と同等。 ・労働時間（補助）において、月150時間未満は家族労働。月150時間を超える分は臨時雇用で1時間1,000円で計上。	
	経費（万円）	178			245			313			631				
	所得（万円）	49			96			141			278				
経営規模（a、頭、等）		10a			15a			20a			40a			トラクター・軽トラック・土壌消毒機（トラクター用）・管理機・動力噴霧機・運搬機・灌水設備・予冷库・ビニールハウス・作業場・農機具格納舎・収穫機（4類のみ）・出荷調整機（4類のみ）	
作業名（大分類）		○ — ■ 播種 収穫 ○ — ■ 播種 収穫 ○ — ■ 播種 収穫 ○ — ■ 播種 収穫												他品目との複合経営を想定しているため、年4作として作成。	
月別労働時間（h）		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	備 考
1類	労働時間（基幹）	0	0	30	20	114	134	100	97	132	123	65	3	817	
	労働時間（補助）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	計	0	0	30	20	114	134	100	97	132	123	65	3	817	家族2名
2類	労働時間（基幹）	0	0	45	31	150	150	150	145	150	150	97	5	1072	
	労働時間（補助）	0	0	0	0	21	51	0	0	48	34	0	0	153	
	計	0	0	45	31	171	201	150	145	198	184	97	5	1225	家族2名
3類	労働時間（基幹）	0	0	60	41	150	150	150	150	150	150	129	6	1136	
	労働時間（補助）	0	0	0	0	78	117	49	43	114	95	0	0	497	
	計	0	0	60	41	228	267	199	193	264	245	129	6	1633	家族2名
4類	労働時間（基幹）	0	0	120	82	150	150	150	150	150	150	147	12	1261	
	労働時間（補助）	0	0	0	0	155	167	76	72	163	126	0	0	758	
	計	0	0	120	82	305	317	226	222	313	276	147	12	2019	家族2名＋臨時雇用1名

備考（１）作物は一般作物（代表的作物）の他、省力作物、特産物、有望・奨励作物なども考慮して選定（「作物選定理由」もこの視点で簡潔に記載）。

（２）農業所得、労働時間は、基本計画の経営モデル策定時の基礎データ等を活用して算出（統計データの基準年（H29年度）は原則合わせること）。

基礎データ（露地ブロッコリー）

【作物作型】：露地ブロッコリー

【作物選定理由】：全国的に作付けがされており、また引き合いが強い品目のため。

		1類		2類		3類		4類		備 考					
		目標50万円程度		100万円程度		150万円～200万円程度		250万円～350万円程度							
農 業 所 得	粗収益（万円）	131		262		393									
	経費（万円）	85		162		239									
	所得（万円）	46		100		154									
経営規模（a、頭、等）		40a		80a		120a				管理機・動力噴霧機・育苗ハウス（50m ² ）・半自動移植機（注）					
作業名（大分類）		○ ◎ 播種定植肥培管理収穫												(秋冬型)	
月別労働時間（h）		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	備 考
1類	労働時間（基幹）	12	12	8	4	0	0	78	94	36	74	72	64	454	
	労働時間（補助）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	計	12	12	8	4	0	0	78	94	36	74	72	64	454	家族2名
2類	労働時間（基幹）	24	24	16	8	0	0	150	150	73	147	144	128	864	
	労働時間（補助）	0	0	0	0	0	0	6	38	0	0	0	0	44	
	計	24	24	16	8	0	0	156	188	73	147	144	128	908	家族2名
3類	労働時間（基幹）	36	36	24	12	0	0	150	150	109	150	150	150	967	
	労働時間（補助）	0	0	0	0	0	0	84	132	0	71	66	42	395	
	計	36	36	24	12	0	0	234	282	109	221	216	192	1362	家族2名
4類	労働時間（基幹）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	労働時間（補助）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

備考（１）作物は一般作物（代表的作物）の他、省力作物、特産物、有望・奨励作物なども考慮して選定（「作物選定理由」もこの視点で簡潔に記載）。

（２）農業所得、労働時間は、基本計画の経営モデル策定時の基礎データ等を活用して算出（統計データの基準年（H29年度）は原則合わせること）。

（注）トラクターや軽トラック、作業場、農機具格納舎は、他品目でも使うものとし、減価償却費・修繕費・利息に計上せず、予冷库は農協などの出荷組織が保有しているものとし、減価償却費・修繕費・利息に計上していない。

基礎データ（ぶどう）

【作物作型】：ぶどう

【作物選定理由】：全国的に広く栽培可能であり、果樹において高収益が期待できる品目であるため

		1類			2類		3類			4類			備 考		
		目標50万円程度			100万円程度		150万円～200万円程度			250万円～350万円程度					
農 業 所 得	粗収益（万円）						550			812					
	経費（万円）						372			496					
	所得（万円）						178			316					
経営規模（a、頭、等）							40a			60a			○導入施設、機械等（例） ぶどう棚、農機具庫、軽トラック、自走式SS、ロボット草刈機、アシストスーツ、気象観測装置 等		
作業名（大分類）		← 整枝 ← ジベレリン処理、房作り、収穫 → 施肥 → 剪定 → ← 摘粒、袋かけ、傘かけ ← 中間管理（除草、水管理、防除、新梢管理） →												3 類：シャインマスカット25a、ピオーネ15a 4 類：シャインマスカット35a、ピオーネ25a	
月別労働時間（h）		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	備 考
1類	労働時間（基幹）														
	労働時間（補助）														
	計														
2類	労働時間（基幹）														
	労働時間（補助）														
	計														
3類	労働時間（基幹）	0	2	55	0	71	150	2	150	2	2	53	112	598	
	労働時間（補助）			8			228		92			14		342	家族労働力1名（248h） 臨時雇用1名（94h）
	計	0	2	62	0	71	378	2	242	2	2	67	112	939	
4類	労働時間（基幹）	0	2	57	0	107	150	2	150	2	2	55	148	676	
	労働時間（補助）			36		8	418		212			46	20	740	家族労働力1名（402h） 臨時雇用3名（338h）
	計	0	2	94	0	107	568	2	362	2	2	101	168	1,409	

備考（１）作物は一般作物（代表的作物）の他、省力作物、特産物、有望・奨励作物なども考慮して選定（「作物選定理由」もこの視点で簡潔に記載）。

（２）農業所得、労働時間は、基本計画の経営モデル策定時の基礎データ等を活用して算出（統計データの基準年（H29年度）は原則合わせること）。

基礎データ（なし）

【作物作型】：なし

【作物選定理由】：全国的に広く栽培可能な果樹の品目であるため

		1類			2類			3類			4類			備 考		
		目標50万円程度			100万円程度			150万円～200万円程度			250万円～350万円程度					
農 業 所 得	粗収益（万円）							844			1,125					
	経費（万円）							644			807					
	所得（万円）							200			318					
経営規模（a、頭、等）								60a			80a			○導入施設、機械等（例） なしジョイント樹形、農機具庫、軽トラック、多目的防災網、自走式SS、ロボット草刈機、アシストスーツ、気象観測装置 等		
作業名（大分類）		← 整枝・剪定 ← 受粉・摘果 ← 摘果 ← 摘果 ← 摘果 ← 収穫 ← 整枝・剪定 ← 施肥 ← 施肥 ← 施肥 ← 施肥 ← 施肥 ← 施肥 ← 施肥 ← 中間管理（除草、水管理、防除、新梢管理、土壌改良、網掛け・網収納、その他） →													3 類：幸水30a、豊水30a 4 類：幸水40a、豊水40a	
月別労働時間（h）		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	備 考	
1類	労働時間（基幹）															
	労働時間（補助）															
	計															
2類	労働時間（基幹）															
	労働時間（補助）															
	計															
3類	労働時間（基幹）	127	150	141	139	150	105	73	150	150	98	74	121	1,478		
	労働時間（補助）		8	28	80	96	73		40	83				408	家族労働力1名	
	計	127	158	168	219	246	178	73	190	233	98	74	121	1,886		
4類	労働時間（基幹）	150	150	150	150	150	150	97	150	150	131	98	150	1,676		
	労働時間（補助）	20	61	75	142	178	88		103	161			12	839	家族労働力1名（549h） 臨時雇用2名（290h）	
	計	170	211	225	292	328	238	97	253	311	131	98	162	2,515		

備考（1）作物は一般作物（代表的作物）の他、省力作物、特産物、有望・奨励作物なども考慮して選定（「作物選定理由」もこの視点で簡潔に記載）。

（2）農業所得、労働時間は、基本計画の経営モデル策定時の基礎データ等を活用して算出（統計データの基準年（H29年度）は原則合わせること）。

基礎データ（かき）

【作物作型】： かき

【作物選定理由】： 中山間地域における果樹の基幹代表作物のひとつであるため

		1類			2類			3類			4類			備 考		
		目標50万円程度			100万円程度			150万円～200万円程度			250万円～350万円程度					
農 業 所 得	粗収益（万円）				330			660								
	経費（万円）				252			431								
	所得（万円）				78			229								
経営規模（a、頭、等）					60a			120a						○導入施設、機械等（例） 農機具庫、軽トラック、ロボット草刈機、アシストスーツ、気象観測装置 等		
作業名（大分類）		← 剪定 → ← 摘蕾 → ← 施肥 → ← 摘果 → ← 施肥 → ← 収穫 → ← 中間管理（除草、水管理、防除、粗皮削り、摘葉、マルチ敷設） →													2類：刀根早生30a、平核無30a 3類：刀根早生60a、平核無60a	
月別労働時間（h）		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	備 考	
1類	労働時間（基幹）															
	労働時間（補助）															
	計															
2類	労働時間（基幹）	60	98	13	122	33	48	75	110	58	150	59	0	825		
	労働時間（補助）		37		31			31	4		75	4		182	家族労働力1名	
	計	60	135	13	153	33	48	106	114	58	225	63	0	1,007		
3類	労働時間（基幹）	120	146	25	150	66	96	99	148	115	150	134	0	1,250		
	労働時間（補助）		124		156			112	80		300	8		780	家族労働力1名（370h） 臨時雇用2名（410h）	
	計	120	270	25	306	66	96	211	228	115	450	134	0	2,022		
4類	労働時間（基幹）															
	労働時間（補助）															
	計															

備考（１）作物は一般作物（代表的作物）の他、省力作物、特産物、有望・奨励作物なども考慮して選定（「作物選定理由」もこの視点で簡潔に記載）。

（２）農業所得、労働時間は、基本計画の経営モデル策定時の基礎データ等を活用して算出（統計データの基準年（H29年度）は原則合わせること）。

基礎データ（ブルーベリー）

【作物作型】：ブルーベリー

【作物選定理由】：栽培管理に要する労力が他の果樹品目と比較して少ないため

		1類			2類			3類			4類			備 考		
		目 標50万円程度			100万円程度			150万円～200万円程度			250万円～350万円程度					
農 業 所 得	粗収益（万円）	95			190			380								
	経 費（万円）	45			81			189								
	所 得（万円）	50			109			191								
経営規模（a、頭、等）		10a			20a			40a						○導入施設、機械等（例） 農機具庫、軽トラック、乗用草刈機、灌水設備 等		
作業名（大分類）		← 整枝・剪定・誘引 収穫 → ← 施肥 施肥 施肥 → ← 中間管理（除草、かん水、防除、土壌管理） →														
月別労働時間（h）		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	備 考	
1類	労働時間（基幹）	15	24	6	18	7	99	150	77	4	4	1	1	404		
	労働時間（補助）							17						17	家族労働力 1 名	
	計	15	24	6	18	7	99	167	77	4	4	1	1	420		
2類	労働時間（基幹）	30	48	12	36	13	150	150	150	8	7	1	1	606		
	労働時間（補助）						46	183	4					233	家族労働力 1 名（203h） 臨時雇用 2 名（30h）	
	計	30	48	12	36	13	197	333	154	8	7	1	1	840		
3類	労働時間（基幹）	60	96	24	72	26	150	150	150	16	14	2	2	762		
	労働時間（補助）						244	516	158					918	家族労働力 1 名（450h） 臨時雇用 4 名（468h）	
	計	60	96	24	72	26	394	666	308	16	14	2	2	1,680		
4類	労働時間（基幹）															
	労働時間（補助）															
	計															

備考（１）作物は一般作物（代表的作物）の他、省力作物、特産物、有望・奨励作物なども考慮して選定（「作物選定理由」もこの視点で簡潔に記載）。

（２）農業所得、労働時間は、基本計画の経営モデル策定時の基礎データ等を活用して算出（統計データの基準年（H29年度）は原則合わせること）。

基礎データ（レモン）

【作物作型】： レモン

【作物選定理由】：栽培管理に要する労力が他の果樹品目と比較して少ないため

		1類			2類			3類			4類			備 考	
		目標50万円程度			100万円程度			150万円～200万円程度			250万円～350万円程度				
農 業 所 得	粗収益（万円）	164			246										
	経費（万円）	122			165										
	所得（万円）	42			81										
経営規模（a、頭、等）		20a			30a									○導入施設、機械等（例） 農機具庫、軽トラック、動力噴霧器、灌水設備 等	
作業名（大分類）		← 施肥 施肥 → ← 剪定 → ← 摘果 → ← 摘果 施肥 → ← 収穫 → ← 中間管理（除草、かん水、防除、土壌管理） →													
月別労働時間（h）		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	備 考
1類	労働時間（基幹）	0	12	12	96	8	10	26	18	20	28	26	26	282	
	労働時間（補助）													0	
	計	0	12	12	96	8	10	26	18	20	28	26	26	282	
2類	労働時間（基幹）	0	18	18	144	12	15	39	27	30	42	39	39	423	
	労働時間（補助）													0	
	計	0	18	18	144	12	15	39	27	30	42	39	39	423	
3類	労働時間（基幹）														
	労働時間（補助）														
	計														
4類	労働時間（基幹）														
	労働時間（補助）														
	計														

備考（１）作物は一般作物（代表的作物）の他、省力作物、特産物、有望・奨励作物なども考慮して選定（「作物選定理由」もこの視点で簡潔に記載）。

（２）農業所得、労働時間は、基本計画の経営モデル策定時の基礎データ等を活用して算出（統計データの基準年（H29年度）は原則合わせること）。

基礎データ（うめ）

【作物作型】：うめ

【作物選定理由】：果実加工品への展開が期待できる品目であるため

		1類		2類		3類		4類		備 考					
		目標50万円程度		100万円程度		150万円～200万円程度		250万円～350万円程度							
農 業 所 得	粗収益（万円）			370		597									
	経費（万円）			276		388									
	所得（万円）			94		209									
経営規模（a、頭、等）				50a		80a				○導入施設、機械等（例） 農機具庫、多目的スプリンクラー、軽トラック、家庭選果機、ロボット草刈機、アシストスーツ、追従式運搬機、気象観測装置 等					
作業名（大分類）		←剪定→ ←摘果（古城）→ ←収穫→ ←施肥→ ←施肥→ ←施肥→ ←施肥→ ←施肥→ ←施肥→ ←剪定→ ←中間管理（除草、かん水、防除、土壌管理）→												2 類：古城20a、小梅10a、南高20a 3 類：古城30a、小梅20a、南高30a	
月別労働時間（h）		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	備 考
1類	労働時間（基幹）														
	労働時間（補助）														
	計														
2類	労働時間（基幹）	17	1	32	65	111	104	18	13	18	38	74	80	656	
	労働時間（補助）					129	129							173	家族労働力1名（113h） 臨時雇用1名（60h）
	計	17	1	32	65	240	233	18	13	18	38	74	80	829	
3類	労働時間（基幹）	26	2	50	102	117	107	28	22	31	62	122	134	803	
	労働時間（補助）					292	244							536	家族労働力1名（200h） 臨時雇用3名（336h）
	計	26	2	50	102	409	351	28	22	31	62	122	134	1,338	
4類	労働時間（基幹）														
	労働時間（補助）														
	計														

備考（1）作物は一般作物（代表的作物）の他、省力作物、特産物、有望・奨励作物なども考慮して選定（「作物選定理由」もこの視点で簡潔に記載）。

（2）農業所得、労働時間は、基本計画の経営モデル策定時の基礎データ等を活用して算出（統計データの基準年（H29年度）は原則合わせること）。

基礎データ（りんどう）

【作物作型】：りんどう

【作物選定理由】 彼岸需要等の市場性が高く、価格が安定。

		1類		2類		3類		4類		備 考					
		目標50万円程度		100万円程度		150万円～200万円程度		250万円～350万円程度							
農 業 所 得	粗収益（万円）	123		246		410		820		青色系早生品種で、定植後5年目以降					
	経費（万円）	66		132		252		585							
	所得（万円）	57		114		158		235							
経営規模（a、頭、等）		15a		30a		50a		80a		支柱(直管)片ツブシ、フラワーネット、トワイローブ					
作業名（大分類）														露地栽培 早生品種で、定植後5年目以降	
		生育期間						収穫		生育期間					
月別労働時間（h）		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	備 考
1類	労働時間（基幹）	0	0	9	26	59	29	101	150	5	2	18	0	399	
	労働時間（補助）	0	0	0	0	0	0	0	44	0	0	0	0	44	
	計	0	0	9	26	59	29	101	194	5	2	18	0	443	家族2名（主従事者1名）
2類	労働時間（基幹）	0	0	19	52	119	58	200	200	9	3	36	0	695	
	労働時間（補助）	0	0	0	0	0	0	2	188	0	0	0	0	190	
	計	0	0	19	52	119	58	202	388	9	3	36	0	885	家族2名（主従事者1名）
3類	労働時間（基幹）	0	0	31	86	100	84	137	126	15	6	59	0	644	
	労働時間（補助）	0	0	0	0	98	13	200	200	0	0	0	0	511	
	計	0	0	31	86	198	97	337	326	15	6	59	0	1,155	家族2名（主従事者1名） 8月は臨時雇用320時間
4類	労働時間（基幹）	0	0	62	123	100	84	136	126	31	12	118	0	792	
	労働時間（補助）	0	0	0	49	147	111	200	200	0	0	0	0	707	
	計	0	0	62	172	247	195	336	326	31	12	118	0	1,499	家族2名（主従事者1名） 5月は臨時雇用148時間、7月は同337時間、8月は同966時間

備考（1）作物は一般作物（代表的作物）の他、省力作物、特産物、有望・奨励作物なども考慮して選定（「作物選定理由」もこの視点で簡潔に記載）。

（2）農業所得、労働時間は、基本計画の経営モデル策定時の基礎データ等を活用して算出（統計データの基準年（H29年度）は原則合わせること）。

基礎データ（ダリア）

【作物作型】：ダリア

【作物選定理由】施設栽培により周年採花が可能で、経営が安定。

		1類			2類			3類			4類			備 考	
		目標50万円程度			100万円程度			150万円～200万円程度			250万円～350万円程度				
農 業 所 得	粗収益（万円）	294			588			882			1,176				
	経費（万円）	230			460			690			922				
	所得（万円）	64			128			192			254				
経営規模（a、頭、等）		5a			10a			15a			20a			施設栽培、フラワーネット、電照設備、暖房機等	
作業名（大分類）														施設栽培 加温電照周年と無加温秋切りを3：1の面積割合で栽培	
		収穫			調整			収穫							
月別労働時間（h）		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	備 考
1類	労働時間（基幹）	14	19	51	40	24	54	64	49	70	65	58	25	532	
	労働時間（補助）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	計	14	19	51	40	24	54	64	49	70	65	58	25	532	家族1名（主従事者1名） 6月は臨時雇用17時間、7月は同15時間、 9月は同29時間、10月は同2時間
2類	労働時間（基幹）	28	37	102	80	47	54	65	61	100	66	58	49	747	
	労働時間（補助）	0	0	0	0	0	53	64	37	40	65	58	0	317	
	計	28	37	102	80	47	107	129	98	140	131	116	49	1,064	家族2名（主従事者1名） 6月は臨時雇用35時間、7月は同29時間、 9月は同59時間、10月は同3時間
3類	労働時間（基幹）	42	56	153	120	71	81	97	61	100	98	87	74	1,040	
	労働時間（補助）	0	0	0	0	0	80	96	86	110	98	87	0	557	
	計	42	56	153	120	71	161	193	147	210	196	174	74	1,597	家族2名（主従事者1名） 6月は臨時雇用52時間、7月は同44時間、 9月は同88時間、10月は同5時間
4類	労働時間（基幹）	56	74	168	123	47	84	97	61	100	131	110	98	1,149	
	労働時間（補助）	0	0	36	37	47	131	160	135	160	130	122	0	958	
	計	56	74	204	160	94	215	257	196	260	261	232	98	2,107	家族2名（主従事者1名） 6月は臨時雇用69時間、7月は同59時間、 9月は同138時間、10月は同7時間

備考（1）作物は一般作物（代表的作物）の他、省力作物、特産物、有望・奨励作物なども考慮して選定（「作物選定理由」もこの視点で簡潔に記載）。

（2）農業所得、労働時間は、基本計画の経営モデル策定時の基礎データ等を活用して算出（統計データの基準年（H29年度）は原則合わせること）。

基礎データ（茶（自園自製自販））

【作物作型】：茶（自園自製自販）

【作物選定理由】：中山間でも生産可能であり、今後の生産の増加が見込める品目であるため

		1類			2類			3類			4類			備 考	
		目標50万円程度			100万円程度			150万円～200万円程度			250万円～350万円程度				
農 業 所 得	粗収益（万円）	370			473			631			946			農業経営体当たり	
	経費（万円）	320			376			455			627			〃	
	所得（万円）	50			98			176			319			〃	
経営規模（a、頭、等）		47a			60a			80a			120a			必要な装備： 摘採機、刈ナラシ機、せん枝機、両面裾刈機、肥料散布機、耕運機、動力噴霧機、トラック、製茶機械（共用）	
作業名（大分類）														労働時間について、毎月171時間/人（1日8時間、週5日）を上限として試算。	
月別労働時間（h）		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	備 考
1類	労働時間（基幹）	61	48	57	77	171	150	120	98	50	51	133	106	1,123	
	労働時間（補助）	0	0	0	0	81	9	5	0	0	0	0	0	95	5～7月 家族（無給）
	計	61	48	57	77	252	160	125	98	50	51	133	106	1,218	
2類	労働時間（基幹）	69	54	65	88	171	155	128	111	56	57	150	120	1,225	
	労働時間（補助）	0	0	0	0	114	25	13	0	0	0	0	0	152	5～7月 家族（無給）
	計	69	54	65	88	285	180	141	111	56	57	150	120	1,377	
3類	労働時間（基幹）	80	62	75	101	171	161	139	129	65	66	171	131	1,352	
	労働時間（補助）	0	0	0	0	158	47	24	0	0	0	2	7	238	5～7月、11月、12月 家族（無給） 5月臨時雇用（13時間）が必要
	計	80	62	75	101	329	208	163	129	65	66	173	139	1,590	
4類	労働時間（基幹）	104	81	97	123	171	171	147	149	85	70	171	136	1,507	
	労働時間（補助）	0	0	0	9	257	100	65	18	0	16	54	44	563	4～8月、10～12月 家族（無給） 5月臨時雇用（86時間）が必要
	計	104	81	97	132	429	271	212	167	85	86	226	180	2,069	

備考（１）作物は一般作物（代表的作物）の他、省力作物、特産物、有望・奨励作物なども考慮して選定（「作物選定理由」もこの視点で簡潔に記載）。

（２）農業所得、労働時間は、基本計画の経営モデル策定時の基礎データ等を活用して算出。

基礎データ（薬用作物（シャクヤク））

【作物作型】：薬用作物（シャクヤク）

【作物選定理由】：寒暖いずれの地域でも生育する広域適応性がある地域特産物のため

		1類			2類			3類			4類			備 考		
		目標50万円程度			100万円程度			150万円～200万円程度			250万円～350万円程度					
農 業 所 得	粗収益（万円）	57.1			114.1			175.6			285.4			前提条件： 経営規模及び労働時間について、栽培年数が5年（1年育苗、その後4年で収穫）の作物であるため、播種から収穫までの段階を同じ年に作付すると想定した場合の合計。 必要な装備： トラクター、掘取機、動力噴機、管理機		
	経費（万円）	7.1			13.6			19.9			29.1					
	所得（万円）	50			100.6			155.8			256.2					
経営規模（a、頭、等）		13a			26a			40a			65a					
作業名（大分類）																
月別労働時間（h）		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	備 考	
1類	労働時間（基幹）	0	20	1	1	37	19	29	26	58	17	0	0	209		
	労働時間（補助）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	計	0	20	1	1	37	19	29	26	58	17	0	0	209		
2類	労働時間（基幹）	0	38	3	1	69	36	55	49	110	31	0	0	393		
	労働時間（補助）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	計	0	38	3	1	69	36	55	49	110	31	0	0	393		
3類	労働時間（基幹）	0	55	4	2	100	52	79	71	158	45	0	0	566		
	労働時間（補助）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	計	0	55	4	2	100	52	79	71	158	45	0	0	566		
4類	労働時間（基幹）	0	78	6	3	142	74	113	100	171	64	0	0	751		
	労働時間（補助）	0	0	0	0	0	0	0	0	54	0	0	0	54		
	計	0	78	6	3	142	74	113	100	225	64	0	0	805		

備考（1）作物は一般作物（代表的作物）の他、省力作物、特産物、有望・奨励作物なども考慮して選定（「作物選定理由」もこの視点で簡潔に記載）。

（2）農業所得、労働時間は、基本計画の経営モデル策定時の基礎データ等を活用して算出（統計データの基準年（H29年度）は原則合わせること）。

※薬用作物（シャクヤク）については、統計データがないため、関係者からの聞き取りを参考に推計

基礎データ（薬用作物（トウキ））

【作物作型】： 薬用作物（トウキ）

【作物選定理由】： 寒暖いずれの地域でも生育する広域適応性がある地域特産物のため

		1類	2類	3類	4類	備 考									
		目標50万円程度	100万円程度	150万円～200万円程度	250万円～350万円程度										
農 業 所 得	粗収益（万円）	72.4	144.7	217.1	361.8	前提条件： 経営規模及び労働時間について、栽培年数が2年の作物であるため、播種から収穫までの段階を同じ年に作付すると想定した場合の合計。 必要な装備： トラクター、移植機、掘取機、動力噴霧機、管理機									
	経費（万円）	21.3	39.7	55.1	81.6										
	所得（万円）	51.0	105.1	162.0	280.2										
経営規模（a、頭、等）		20a	40a	60a	100a										
作業名（大分類）															
月別労働時間（h）		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	備 考
1類	労働時間（基幹）	30	86	96	0	5	26	28	29	19	10	61	30	421	
	労働時間（補助）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	計	30	86	96	0	5	26	28	29	19	10	61	30	421	
2類	労働時間（基幹）	54	154	172	0	9	46	50	53	35	18	109	54	754	
	労働時間（補助）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	計	54	154	172	0	9	46	50	53	35	18	109	54	754	
3類	労働時間（基幹）	72	160	177	0	12	61	67	70	46	24	144	72	904	
	労働時間（補助）	0	44	51	0	0	0	0	0	0	0	0	0	95	2,3月家族（無給）が必要
	計	72	204	228	0	12	61	67	70	46	24	144	72	999	
4類	労働時間（基幹）	100	160	177	0	16	84	93	97	64	33	171	100	1,095	
	労働時間（補助）	0	123	139	0	0	0	0	0	0	0	29	0	291	2,3,11月家族（無給）が必要
	計	100	283	316	0	16	84	93	97	64	33	200	100	1,386	

備考（1）作物は一般作物（代表的作物）の他、省力作物、特産物、有望・奨励作物なども考慮して選定（「作物選定理由」もこの視点で簡潔に記載）。

（2）農業所得、労働時間は、基本計画の経営モデル策定時の基礎データ等を活用して算出（統計データの基準年（H29年度）は原則合わせること）。

※薬用作物（トウキ）については、統計データがないため、関係者からの聞き取りを参考に推計

基礎データ（繁殖経営）

【作物作型】：繁殖経営

【作物選定理由】：畜種の中でも專業率の低い畜種であること、酪肉近や基本計画でも目指すべき姿を公表している畜種であることなどから、繁殖経営を選択。

		1類		2類		3類		4類		備 考					
		目標50万円程度		100万円程度		150万円～200万円程度		250万円～350万円程度							
農 得 業 所	粗収益（万円）			276		564		1,092		畜産生産費統計から算出。 繁殖雌牛1頭当たりの収益性×月当たりの繁殖雌牛平均飼養頭数					
	経費（万円）			176		382		718							
	所得（万円）	0		100		183		374							
経営規模（a、頭、等）				繁殖雌牛2～5頭未満 （月当たりの繁殖雌牛平均飼養頭数：3.3頭/月）		繁殖雌牛5～10頭未満 （月当たりの繁殖雌牛平均飼養頭数：7.2頭/月）		繁殖雌牛10～20頭未満 （月当たりの繁殖雌牛平均飼養頭数：14.4頭/月）							
作業名（大分類）		類型	合計	直接労働時間			間接労働時間		季節による作業量の大きな変動はないため、畜産物生産費統計にある子牛1頭当たりの作業別労働時間を記入。						
				小計	飼養労働時間		その他	うち 自給牧草に係る時間							
2類	231.77	186.27	102.12	46.87	37.28	45.5	38.64								
3類	209.98	171.57	98.92	48.11	24.54	38.41	33.22								
4類	137.09	114.57	70.2	23.27	21.1	22.52	19.24								
月別労働時間（h）		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	備 考
1類	労働時間（基幹）													0	
	労働時間（補助）													0	
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
2類	労働時間（基幹）	畜産生産費統計から算出。													
	労働時間（補助）	畜産の場合、毎日飼養管理が発生するため、年間の労働時間を示す。 基幹：子牛販売頭数（頭/経営体）×家族労働時間（時間/子牛1頭）÷農業就業者数（人/経営体）=2.7頭×231.2時間÷1.7人≒367時間/人 補助：子牛販売頭数（頭/経営体）×雇用労働時間（時間/子牛1頭）=2.7頭×0.62時間≒2時間													
	計														
3類	労働時間（基幹）	畜産生産費統計から算出。													
	労働時間（補助）	畜産の場合、毎日飼養管理が発生するため、年間の労働時間を示す。 基幹：子牛販売頭数（頭/経営体）×家族労働時間（時間/子牛1頭）÷農業就業者数（人/経営体）=5.6頭×204.83時間÷1.6人≒717時間/人 補助：子牛販売頭数（頭/経営体）×雇用労働時間（時間/子牛1頭）=5.6頭×5.15時間≒29時間													
	計														
4類	労働時間（基幹）	畜産生産費統計から算出。													
	労働時間（補助）	畜産の場合、毎日飼養管理が発生するため、年間の労働時間を示す。 基幹：子牛販売頭数（頭/経営体）×家族労働時間（時間/子牛1頭）÷農業就業者数（人/経営体）=11.4頭×133.05時間÷1.8人≒843時間/人 補助：子牛販売頭数（頭/経営体）×雇用労働時間（時間/子牛1頭）=11.4頭×4.04時間≒46時間													
	計														

備考（1）作物は一般作物（代表的作物）の他、省力作物、特産物、有望・奨励作物なども考慮して選定（「作物選定理由」もこの視点で簡潔に記載）。

（2）農業所得、労働時間は、基本計画の経営モデル策定時の基礎データ等を活用して算出（統計データの基準年（H29年度）は原則合わせること）。

基礎データ（スギ）

【作物作型】： スギ

【作物選定理由】： 林業で代表的な樹種であり中山間地域でも主要な樹種と考えられるため

		1類			2類			3類			4類			備 考	
		目 標50万円程度			100万円程度			150万円～200万円程度			250万円～350万円程度				
農 業 所 得	粗収益（万円）	65			130			209			479				
	経費（万円）	14			29			46			186				
	所得（万円）	51			102			163			292				
経営規模（a、頭、等）		間伐2.5ha			間伐5.0ha			間伐8.0ha			間伐9.3ha			【1～3類】チェーンソー、ロープウィンチ、軽トラック 【4類】チェーンソー、林内作業車、2tトラック（ロング）	
作業名（大分類）		← 間伐（伐採・集材・搬出） →						← 間伐（伐採・集材・搬出） →						・梅雨の時期は作業を行わない。それ以外の時期は作業量や地域によっては積雪等により作業期間が限られる。	
月別労働時間（h）		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	備 考
1類	労働時間（基幹）									150	150	150	123	573	家族2名
	労働時間（補助）									56	76	75	20	227	
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	206	226	225	143	800
2類	労働時間（基幹）	150	150	150	96					150	150	150	150	1146	家族2名
	労働時間（補助）	60	60	60	38					56	60	60	60	454	
	計	210	210	210	134	0	0	0	0	206	210	210	210	1600	
3類	労働時間（基幹）	150	150	150	150	150			150	150	150	150	150	1500	家族2名
	労働時間（補助）	110	110	110	110	90			90	110	110	110	110	1060	
	計	260	260	260	260	240	0	0	240	260	260	260	260	2560	
4類	労働時間（基幹）	150	150	150	150	150			150	150	150	150	150	1500	家族2名
	労働時間（補助）	150	150	150	150	150			126	150	150	150	150	1476	
	計	300	300	300	300	300	0	0	276	300	300	300	300	2976	

備考（１）作物は一般作物（代表的作物）の他、省力作物、特産物、有望・奨励作物なども考慮して選定（「作物選定理由」もこの視点で簡潔に記載）。

（２）農業所得、労働時間は、基本計画の経営モデル策定時の基礎データ等を活用して算出（統計データの基準年（H29年度）は原則合わせる）。

基礎データ（原木しいたけ）

【作物作型】：原木しいたけ

【作物選定理由】：特用林産物の中でも比較的中山間地域における複合経営が多い品目であると想定されるため

		1類			2類			3類			4類			備 考	
		目標50万円程度			100万円程度			150万円～200万円程度			250万円～350万円程度				
農 業 所 得	粗収益（万円）	251			456			760			1,140				
	経費（万円）	187			345			583			845				
	所得（万円）	64			111			177			295				
経営規模（a、頭、等）		ほだ場300㎡			ほだ場500㎡			ほだ場700㎡			ほだ場1,000㎡			栽培舎、人工ほだ場、ほだ木運搬車	
作業名（大分類）		玉切り・種菌・仮伏せ													
		伏せ込み													
		浸水													
		収穫（冬出し） 収穫（夏出し） 収穫（秋～冬出し）													
月別労働時間（h）		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	備 考
1類	労働時間（基幹）	50	50	73	76	106	106	53	53	86	86	86	86	911	
	労働時間（補助）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	計	50	50	73	76	106	106	53	53	86	86	86	86	911	
2類	労働時間（基幹）	100	100	147	152	180	180	107	107	172	172	172	172	1,761	
	労働時間（補助）	0	0	0	0	32	32	0	0	0	0	0	0	64	家族1人
	計	100	100	147	152	212	212	107	107	172	172	172	172	1,825	
3類	労働時間（基幹）	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	1,800	
	労働時間（補助）	17	17	96	104	204	204	29	29	137	137	137	137	1,248	月150時間未満は家族労働。月150時間を超える分は臨時雇用で1時間1,000円で計上。
	計	167	167	246	254	354	354	179	179	287	287	287	287	3,048	
4類	労働時間（基幹）	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	1,800	
	労働時間（補助）	50	50	145	154	274	274	64	64	194	194	194	194	1,851	月150時間未満は家族労働。月150時間を超える分は臨時雇用で1時間1,000円で計上。
	計	200	200	295	304	424	424	214	214	344	344	344	344	3,651	

備考（１）作物は一般作物（代表的作物）の他、省力作物、特産物、有望・奨励作物なども考慮して選定（「作物選定理由」もこの視点で簡潔に記載）。

（２）農業所得、労働時間は、基本計画の経営モデル策定時の基礎データ等を活用して算出（統計データの基準年（H29年度）は原則合わせること）。